

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ			担当教員	丹木 博一, 岩崎 明子, 寒野 康太, 島村 絵里子, 上田 圭委子, W. Nampet
開講期	春	分類	必修		
単位	2	標準受講年次	1年		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要			学修成果獲得の観点
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。			1-①, 2-①
キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味				
担当教員の 連絡 情報	各科目担当教員の個別シラバスを参照すること。 Refer to the individual syllabus for each class and teacher.				
授業の 概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマンイズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現する人生への道しるべを探求する。				
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、国際社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。				
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の中に生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。				
評価方法	①毎回の事前課題の提出 (22.5%)、②授業への積極的参加 (7.5%)、③授業毎のリアクションペーパー (15%)、④中間課題 (1,000～1,200 字の小レポート) (20%)、⑤期末課題 (2,000 字以上のレポート) (35%)				
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。 ②授業への積極的参加：真剣に授業に参画し、活発な意見交換ができること。 ③リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。 ④中間課題：1,000～1,200 字の小レポート。 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ⑤期末課題：人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえた上で、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、2,000 字以上の小論文を作成する。最低一冊の参考文献を読み、参考文献の筆者の言葉と自分自身の言葉を区別しながら、参考文献の内容を要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。巻末に文献表を付すこと。 <b>【Nampet 講師の評価方法および評価基準は人間学Ⅰ (S) のシラバスを参照すること。】</b>				
準備学修 の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。				

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1- 15	各科目担当教員の個別シラバスを参照すること。 Refer to the individual syllabus for each class and teacher.		

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』 【Nampet 講師のテキストは人間学 I (S) のシラバスを参照すること。】
参考書	ヴィクトール・フランクル (池田香代子訳)『夜と霧』(みすず書房) エーリッヒ・フロム (鈴木晶訳)『愛するということ』(紀伊國屋書店) キューブラー・ロス (鈴木晶訳)『死ぬ瞬間』(中公文庫) 【Nampet 講師の参考書は人間学 I (S) のシラバスを参照すること。】
その他 特記事項	15 回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。 あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ ① <月のみ>				担当教員	寒野 康太		
開講期	春	開講時限	月 2 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味							
授業の 概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマンイズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現する人生への道しるべを探求する。							
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、国際社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。							
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の間生まれ、人間によって生まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。							
評価方法	①毎回の事前課題の提出 (22.5%)、②授業への積極的参加 (7.5%)、③授業毎のリアクションペーパー (15%)、④中間課題 (1,000～1,200 字の小レポート) (20%)、⑤期末課題 (2,000 字以上のレポート) (35%)							
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。 ②授業への積極的参加：真剣に授業に参画し、活発な意見交換ができること。 ③リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。 ④中間課題：1,000～1,200 字の小レポート。 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ⑤期末課題：人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえた上で、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、2,000 字以上の小論文を作成する。最低一冊の参考文献を読み、参考文献の筆者の言葉と自分自身の言葉を区別しながら、参考文献の内容を要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。巻末に文献表を付すこと。							
準備学修 の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	人間学について 人間学を学ぶことについての理解を深め、はじめにあるテキストを読み講義全体で把握すべきことをあらかじめ考える	講義、グループ分け、 リアクションペーパー  各回の講義には dvd や その他のものを視聴する ことが含まれる。	テキストにある「はじめに」 を読みまとめる 人間学という言葉からあらか じめ思うことについてまとめ る。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
2	テーマ1「いのちを支えるものとの関わり」 地球にある生命について、又そのなかでの人間の生命について理解を深める	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキストの「生命のはじまり」の前半を読みまとめる。
3	テーマ1の続き 2 人間の生命のはじまりに関わる問題、人間性の心理について	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキストの「生命のはじまり」の後半を読みまとめる
4	テーマ2「成長発達を促すものとのかかわり」 人間の成長に関する見方のまとめ	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	第二章のテキスト3の前半を読みまとめる
5	テーマ2の続き 2 共同体のなかにある一人の人として、アイデンティティーについて	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキスト3の後半を読みまとめる
6	テーマ2の続き 3 人間の成長の見方と 今の自分の感じ考えていること	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	第二章の資料を読みながら、自分の考えをまとめる
7	テーマ3「他者への関わりと自己理解の形成」 性と自分自身であるということ	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	第三章のテキスト4を読みまとめる
8	テーマ3の続き 2 正しい社会をつくっていくために	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	第三章のテキスト5を読みまとめる
9	テーマ3の続き 3 身の回りにある世界の問題	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	自分のアイデンティティー、そして社会の問題について自分でまとめる
10	テーマ4「他者へのかかわりにおける自由と責任」 1 さまざまな自由についての考えを知る	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」の前半を読みまとめる
11	テーマ4の続き 2 真に自由なものとなるために	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」の後半を読みまとめる
12	テーマ4の続き 3 自分の生き方と、自由であること	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	自由を引き受ける人間についての見方と、それに対する自分の考えをまとめる
13	テーマ5「人生の苦しみの意味と希望」 生きているときに会おう苦しみにについて	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	資料を読みながら、感じたことをまとめる
14	テーマ5の続き 2 死について学ぶこと—どうして必要なのか	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキスト7を読みまとめる
15	テーマ5の続き 3 苦しみを受け止め、また苦しむ人とかかわる	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	期末のレポートを提出する

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル(池田香代子訳)『夜と霧』(みすず書房) エーリッヒ・フロム(鈴木晶訳)『愛するということ』(紀伊國屋書店) キューブラー・ロス(鈴木晶訳)『死ぬ瞬間』(中公文庫)
その他 特記事項	15回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ ② <月のみ>				担当教員	上田 圭委子		
開講期	春	開講時限	月 2 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味							
授業の 概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマンイズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現する人生への道しるべを探求する。							
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、国際社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。							
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の間生まれ、人間によって生まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。							
評価方法	①毎回の事前課題の提出 (22.5%)、②授業への積極的参加 (7.5%)、③授業毎のリアクションペーパー (15%)、④中間課題 (1,000~1,200 字の小レポート) (20%)、⑤期末課題 (2,000 字以上のレポート) (35%)							
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。 ②授業への積極的参加：真剣に授業に参画し、活発な意見交換ができること。 ③リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。 ④中間課題：1,000~1,200 字の小レポート。 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ⑤期末課題：人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえた上で、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、2,000 字以上の小論文を作成する。最低一冊の参考文献を読み、参考文献の筆者の言葉と自分自身の言葉を区別しながら、参考文献の内容を要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。巻末に文献表を付すこと。							
準備学修 の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	人間学の概要、目的、進め方 テーマ1「いのちを支えるものとのかかわり」概説	講義・リアクションペーパー	教科書の「生命のはじまり」の前半部分の要約。
2	私たちの「いのち」を支えてくれているもの、支えてくれているものについて考える	講義・リアクションペーパー、討議	教科書の「生命のはじまり」の後半部分の要約。
3	私たちが授かり、育て、支えてゆく「いのち」について考える	講義・リアクションペーパー、討議	マズローの5段階の欲求についての教科書の内容を要約。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
4	テーマ2「成長発達を促すものとのかかわり」概説	講義・リアクションペーパー、討議	教科書の「人間の成長とライフサイクル」前半の要約。
5	ライフサイクルの段階に応じた、人間の成長のための課題について考える	講義・リアクションペーパー、討議	教科書の「人間の成長とライフサイクル」の後半の要約。
6	ライフサイクルの段階に応じた、他者とのかかわりのありかたの課題について考える	講義・リアクションペーパー、討議	エリクソンの心理・社会的モデルについて調べる。
7	テーマ3「他者へのかかわりと自己理解の形成」概説	講義・リアクションペーパー、討議	教科書の「ジェンダーと他者」を読む。
8	ジェンダーとアイデンティティの問題について考える	講義・リアクションペーパー、討議	ジェンダーの問題に関わる記事やニュースを収集する。
9	社会の中のさまざまな差別の存在とその原因について学び、考える	講義・リアクションペーパー、討議	教科書の「公正な社会、差別なき社会へ」を要約する。
10	テーマ4「他者へのかかわりにおける自由と責任」概説	講義・リアクションペーパー、討議	教科書の「自由への旅」の前半を要約する。
11	ほんとうの「自由」とは何かについて考える。フランクル『夜と霧』の抜粋を読む	講義・リアクションペーパー、討議	教科書の「自由への旅」の後半を要約する。
12	自然が無償で与えてくれているものへの気付きと、環境に対する人間の責任を考える	講義・リアクションペーパー、討議	「ルカ福音書」第10章25-37節を読む。
13	テーマ5「人間の苦しみの意味と希望」概説	講義・リアクションペーパー、討議	教科書の「人間学とキリスト教ヒューマニズム」の要約。
14	人生における苦しみの意味について考える	講義・リアクションペーパー、討議	教科書の「死をめぐるかかわり」の要約。
15	苦しみの中で、希望を持って生きるための支えとなるものについて考える	講義・リアクションペーパー	期末レポート提出。

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル(池田香代子訳)『夜と霧』(みすず書房) エーリッヒ・フロム(鈴木晶訳)『愛するということ』(紀伊國屋書店) キューブラー・ロス(鈴木晶訳)『死ぬ瞬間』(中公文庫)
その他 特記事項	15回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ ③ <月のみ>				担当教員	寒野 康太		
開講期	春	開講時限	月1限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1,2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味							
授業の概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマンイズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現する人生への道しるべを探求する。							
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、国際社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。							
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の間生まれ、人間によって生まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。							
評価方法	①毎回の事前課題の提出(22.5%)、②授業への積極的参加(7.5%)、③授業毎のリアクションペーパー(15%)、④中間課題(1,000~1,200字の小レポート)(20%)、⑤期末課題(2,000字以上のレポート)(35%)							
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。 ②授業への積極的参加：真剣に授業に参画し、活発な意見交換ができること。 ③リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。 ④中間課題：1,000~1,200字の小レポート。 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ⑤期末課題：人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえた上で、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、2,000字以上の小論文を作成する。最低一冊の参考文献を読み、参考文献の筆者の言葉と自分自身の言葉を区別しながら、参考文献の内容を要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。巻末に文献表を付すこと。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	人間学について 人間学を学ぶことについての理解を深め、はじめにあるテキストを読み講義全体で把握すべきことをあらかじめ考える	講義、グループ分け、リアクションペーパー  各回の講義にはdvdやその他のものを視聴することが含まれる。	テキストにある「はじめに」を読みまとめる 人間学という言葉からあらかじめ思うことについてまとめる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
2	テーマ1「いのちを支えるものとの関わり」 地球にある生命について、又そのなかでの人間の生命について理解を深める	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキストの「生命のはじまり」の前半を読みまとめる。
3	テーマ1の続き 2 人間の生命のはじまりに関わる問題、人間性の心理について	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキストの「生命のはじまり」の後半を読みまとめる
4	テーマ2「成長発達を促すものとのかかわり」 人間の成長に関する見方のまとめ	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	第二章のテキスト3の前半を読みまとめる
5	テーマ2の続き 2 共同体のなかにある一人の人として、アイデンティティーについて	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキスト3の後半を読みまとめる
6	テーマ2の続き 3 人間の成長の見方と今の自分の感じ考えていること	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	第二章の資料を読みながら、自分の考えをまとめる
7	テーマ3「他者への関わりと自己理解の形成」 性と自分自身であるということ	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	第三章のテキスト4を読みまとめる
8	テーマ3の続き 2 正しい社会をつくっていくために	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	第三章のテキスト5を読みまとめる
9	テーマ3の続き 3 身の回りにある世界の問題	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	自分のアイデンティティー、そして社会の問題について自分でまとめる
10	テーマ4「他者へのかかわりにおける自由と責任」 1 さまざまな自由についての考えを知る	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」の前半を読みまとめる
11	テーマ4の続き 2 真に自由なものとなるために	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」の後半を読みまとめる
12	テーマ4の続き 3 自分の生き方と、自由であること	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	自由を引き受ける人間についての見方と、それに対する自分の考えをまとめる
13	テーマ5「人生の苦しみの意味と希望」 生きているときに会おう苦しみにについて	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	資料を読みながら、感じたことをまとめる
14	テーマ5の続き 2 死について学ぶこと—どうして必要なのか	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	テキスト7を読みまとめる
15	テーマ5の続き 3 苦しみを受け止め、また苦しむ人とかかわる	講義、グループディスカッション、リアクションペーパー	期末のレポートを提出する

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル(池田香代子訳)『夜と霧』(みすず書房) エーリッヒ・フロム(鈴木晶訳)『愛するということ』(紀伊國屋書店) キューブラー・ロス(鈴木晶訳)『死ぬ瞬間』(中公文庫)
その他 特記事項	15回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ ④ <月のみ>				担当教員	岩崎 明子		
開講期	春	開講時限	月2限	研究室	4213	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1,2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味							
授業の概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマンイズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現する人生への道しるべを探求する。							
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、国際社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。							
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の間生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。							
評価方法	①毎回の事前課題の提出(22.5%)、②授業への積極的参加(7.5%)、③授業毎のリアクションペーパー(15%)、④中間課題(1,000~1,200字の小レポート)(20%)、⑤期末課題(2,000字以上のレポート)(35%)							
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。 ②授業への積極的参加：真剣に授業に参画し、活発な意見交換ができること。 ③リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。 ④中間課題：1,000~1,200字の小レポート。 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ⑤期末課題：人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえた上で、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、2,000字以上の小論文を作成する。最低一冊の参考文献を読み、参考文献の筆者の言葉と自分自身の言葉を区別しながら、参考文献の内容を要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。巻末に文献表を付すこと。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	上智大学の人間学とは何か 授業の概要説明	講義、リアクションペーパー	テキスト
2	自分とのかかわり 動物と人間のちがいは	講義、DVD、意見交換、リアクションペーパー	テキストを読む
3	自分とのかかわり 人間の心の発達	講義、DVD、意見交換、リアクションペーパー	テキストを読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
4	自分とのかかわり 人間の自由について	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	テキストを読む
5	他者とのかかわり 家族の役割とは	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	テキストを読む
6	他者とのかかわり 他者とのコミュニケーションについて	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	テキストを読む
7	他者とのかかわり 差別と人間の尊厳について	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	テキストを読む 中間課題提出
8	国際社会とのかかわり 貧しさと豊かさを生む経済について	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	
9	国際社会とのかかわり 紛争と戦争と難民について	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	
10	国際社会とのかかわり 国際協力について	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	
11	いのちと自然とのかかわり 環境問題とエコロジーについて	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	
12	いのちと自然とのかかわり 生命科学と生命倫理について	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	
13	いのちと自然とのかかわり 人間らしく死を迎えるとは	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	テキストを読む 期末課題提出
14	かかわりの源泉へ 人生の苦難と救い	講義、DVD、意見交換、 リアクションペーパー	テキストを読む
15	かかわりの源泉へ わたしの人生の意味と希望		

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル(池田香代子訳)『夜と霧』(みすず書房) エーリッヒ・フロム(鈴木晶訳)『愛するということ』(紀伊國屋書店) キューブラー・ロス(鈴木晶訳)『死ぬ瞬間』(中公文庫)
その他 特記事項	15回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。 あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ ⑤ <月のみ>				担当教員	丹木 博一	
開講期	春	開講時限	月2限	研究室	4214	オフィスアワー P.16を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	1,2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				1-①, 2-①	
キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味						
授業の概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマンイズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現する人生への道しるべを探求する。						
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、国際社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。</li> <li>②人間の間生まれ、人間によって育まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。</li> <li>③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。</li> <li>④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。</li> </ul>						
評価方法	①毎回の事前課題の提出(22.5%)、②授業への積極的参加(7.5%)、③授業毎のリアクションペーパー(15%)、④中間課題(1,000~1,200字の小レポート)(20%)、⑤期末課題(2,000字以上のレポート)(35%)						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。</li> <li>②授業への積極的参加：真剣に授業に参画し、活発な意見交換ができること。</li> <li>③リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。</li> <li>④中間課題：1,000~1,200字の小レポート。 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。</li> <li>⑤期末課題：人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえた上で、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、2,000字以上の小論文を作成する。最低一冊の参考文献を読み、参考文献の筆者の言葉と自分自身の言葉を区別しながら、参考文献の内容を要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。巻末に文献表を付すこと。</li> </ul>						
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	人間学の概要・目的・進め方 テーマ1「いのちを支えるものとのかかわり」 ①私たちのいのちをめぐる状況は?	講義・グループ分け リアクションペーパー	教科書①テキスト2「生命のはじまり」の前半部分を読み、まとめる。
2	②私たちのいのちは何によって支えられているか?	講義・DVD視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト2「生命のはじまり」の後半部分を読み、まとめる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
3	③生きるために必要なことを満たすために私たちは何をなすべきか?	講義・DVD視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①資料集1のマズローのニード論を読み、まとめる。
4	テーマ2「成長発達を促すものとのかかわり」 ①成長の過程にはどのようなかかわりがあるだろうか?	講義・絵本の朗読 グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト3「人間の成長とライフサイクル」の前半を読み、まとめる。
5	②かかわりをとおして自分はどのような成長を遂げたのだろうか?	講義・DVD視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト3「人間の成長とライフサイクル」の後半を読み、まとめる。
6	③いまの自分の発達課題はなんだろうか?	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	エリクソンの理論に照らして、自身の発達課題について考えたことをまとめる。
7	テーマ3「他者へのかかわりと自己理解の形成」 ①他者を自分とは異なる者として意識するのはどのような場合だろうか?	講義・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト4「ジェンダーと他者」を読みまとめる。
8	②私たちのアイデンティティはどのように形成されているのだろうか?	講義・DVD視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	中間レポート提出
9	③アイデンティティの形成を脅かすものはなんだろうか? ※中間レポートに対するコメント	講義・写真集閲覧・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト5「公正な社会、差別なき世界へ」を読み、まとめる。
10	テーマ4「他者へのかかわりにおける自由と責任」 ①他者との共生にはどのような問題があるだろうか?	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト6「自由への旅」の前半を読み、まとめる。
11	②その問題は何に起因するのだろうか?	講義・DVD視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト6「自由への旅」の後半を読みまとめる。
12	③それはどのように解決可能だろうか?	講義・グループディスカッション・リアクションペーパー	自分のために生きることと他者のために生きることとの関係についてまとめる。
13	テーマ5「人生の苦しみの意味と希望」 ①人間に避けられない宿命としての苦しみにどのようなものがあるだろうか	講義・DVD視聴・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト1「人間学とキリスト教ヒューマニズム」を読み、まとめる。
14	②人生に苦しみがあることは何を意味するのだろうか?	講義・絵本の朗読・グループディスカッション・リアクションペーパー	期末レポート提出
15	③苦しみを受け止め、希望を持って生きていく可能性はどこに求められるだろうか? ※期末レポートに対するコメント	講義・グループディスカッション・リアクションペーパー	教科書①テキスト7「死をめぐるかかわり」を読み、まとめる。

テキスト	①上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』 ②『新約聖書』(授業初回時に配布)
参考書	ヴィクトール・フランクル(池田香代子訳)『夜と霧』(みすず書房) エーリッヒ・フロム(鈴木晶訳)『愛するということ』(紀伊國屋書店) キューブラー・ロス(鈴木晶訳)『死ぬ瞬間』(中公文庫)
その他特記事項	15回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶことは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ ⑥ <月のみ>				担当教員	島村 絵里子		
開講期	春	開講時限	月1限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	人間の尊厳、かかわり、コミュニケーション、生きる意味							
授業の 概要	建学の精神であるキリスト教ヒューマンイズムに基づき、「人間とは何か」という問いについて、「かかわり」という視点から学際的な考察を行う。テキスト講読を通して、「他者のために、他者とともに」生きることを模索し、各人固有の存在意義を実現する人生への道しるべを探求する。							
達成目標	「人間とは何か」という問いと向き合い、自分自身、家族、他者、国際社会、自然、神との「かかわり」について真剣に考察することによって、「人格的主体」として生きる人間の「尊厳」の意味を理解できるようになる。							
到達目標	①人間学のキーワードの意味内容を正確に理解し、それらの語句を適切に用いることができる。 ②人間の間生まれ、人間によって生まれ、人間とのかかわりを求めながら生きる自己のあり方を振り返り、「他者と共に生きること」を自分自身の課題として受けとめ、その理解内容を表現できる。 ③社会や自然、そして神とのかかわりの諸相に関心を寄せ、人間が「よく生きるために必要なこと」は何であるかを問い、それを自分自身の課題として表現できる。 ④生老病死の苦しみがあるにもかかわらず、「人はなぜ生きるのか」という問いについて自分の考えを表現できる。							
評価方法	①毎回の事前課題の提出（22.5%）、②授業への積極的参加（7.5%）、③授業毎のリアクションペーパー（15%）、④中間課題（1,000～1,200字の小レポート）（20%）、⑤期末課題（2,000字以上のレポート）（35%）							
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。 ②授業への積極的参加：真剣に授業に参画し、活発な意見交換ができること。 ③リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できること。 ④中間課題：1,000～1,200字の小レポート。 「他者との共生」について、人間学の基本用語を理解した上で、自分の言葉で問題を提起し、その問いについて考察した内容を分かりやすく表現できること。 ⑤期末課題：人間に「生老病死」の苦しみがあることを踏まえた上で、「どうしたら希望をもって生きられるか」について、2,000字以上の小論文を作成する。最低一冊の参考文献を読み、参考文献の筆者の言葉と自分自身の言葉を区別しながら、参考文献の内容を要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できること。巻末に文献表を付すこと。							
準備学修 の時間	本科目の一回（90分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	導入①： 人間学の概要・目的・授業の進め方	講義・リアクションペーパー	テキスト6「自由への旅」1～3節の要約
2	導入②： キリスト教ヒューマンイズムへの招き	講義・視聴覚・意見交換・リアクションペーパー	テキスト1「人間学とキリスト教ヒューマンイズム」1節の要約

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
3	1. 生きるために必要なものとのかかわり① ～自分のいのちと他者のいのち	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト2「生命のはじまり」 1,2節の要約
4	1. 生きるために必要なものとのかかわり② ～他者のいのちとのかかわり	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト2「生命のはじまり」 3,4節の要約
5	2. 人間の成長発達の原因となるかかわり① ～自立と自律	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト3「人間の成長とラ イフサイクル」1-4節の要約
6	2. 人間の成長発達の原因となるかかわり② ～人生経路のモデルから自分を発見	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト3「人間の成長とラ イフサイクル」5,6節の要約
7	3. 他者へのかかわりと自己理解の形成① ～自分と他者の「ジェンダー」	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト4「ジェンダーと他 者」の要約
8	3. 他者へのかかわりと自己理解の形成② ～人間の尊厳と権利	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト5「公正な社会、差 別なき世界へ」1,2節の要約
9	3. 他者へのかかわりと自己理解の形成③ ～差別問題の理解と自己理解	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト5「公正な社会、差 別なき世界へ」3,4節の要約
10	4. 他者へのかかわりにおける自由と責任① ～「自由」の二つの側面	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト6「自由への旅」4,5 節の要約
11	4. 他者へのかかわりにおける自由と責任② ～「招きとしての自由」	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト6「自由への旅」6 節の要約
12	5. 人生の苦しみの意味と希望① ～死に向かい合うこと	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト7「死をめぐるかか り」1,2節の要約
13	5. 人生の苦しみの意味と希望② ～苦しみに向かい合うこと	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト7「死をめぐるかか り」3,4節の要約
14	5. 人生の苦しみの意味と希望③ ～キリスト教の人間理解	講義・視聴覚・意見 交換・リアクションペ ーパー	テキスト1「人間学とキリス ト教ヒューマニズム」2節の 要約
15	まとめ:再び キリスト教ヒューマニズム 「他者のために・他者とともに」	講義・意見交換・ リアクションペーパー	テキスト1「人間学とキリス ト教ヒューマニズム」2節の 要約

テキスト	上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』
参考書	ヴィクトール・フランクル(池田香代子訳)『夜と霧』(みすず書房) エーリッヒ・フロム(鈴木晶訳)『愛するということ』(紀伊國屋書店) キューブラー・ロス(鈴木晶訳)『死ぬ瞬間』(中公文庫)
その他 特記事項	15回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。 あらゆる文化の基礎には一定の人間観が存在する。必修科目としてキリスト教人間観を学ぶこ とは、他の人間観と対照するための基軸を得ることである。積極的参加を望む。

科目名	SCH100: 人間学Ⅰ（S） <月のみ>				担当教員	W. Nampet	
開講期	春	開講時限	月2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー P.16を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1年	連絡先	
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。				1-①, 2-①	
キーワード	Humanity, Human Evolution and Behaviors, Life, Consciousness, Freedom, Morality, Maturity						
授業の 概要	Anthropology, a study of humanity, deals with all that is characteristic of the human experiences, from physiology and the evolutionary origins to the social and cultural organization of human societies as well as individual and collective forms of human experiences. This course focuses on the understanding of human evolution, and the main essential characteristics of becoming an individual as human “life”, namely, development of consciousness, freedom, morality, maturity, Eros, etc.						
達成目標	The aim of this course is to examine a view of human being in accordance with the spirit of the Sophia foundation, which is grounded on Christ’s teachings on humanism. Within this connection, it aims to help students to appreciate human dignity existing in an individual based on the studies of human history and development; the uniqueness of characteristics of human life and behaviors (i.e., consciousness, freedom, morality, socialization, etc.).						
到達目標	By the end of the semester, students will be able to explain how a human individual exists in the context of human history and evolution; and describe the uniqueness of human characteristics and behaviors in general.						
評価方法	Class participation (30%), Class assignments (20%), Formative assessment (15%), Mid-term exam (20%), Summative assessment (15%)						
評価基準	Class participation (regularly-actively attending classes, a daily quiz of knowledge gained from the previous lesson, individual idea contributions and asking questions, and group discussions); Class assignments (short reports, film critiques, reading assignments, homework, and self-studies); Formative assessment (a short test held by two weeks prior to the Mid-term to evaluate students’ in-progress learning); Summative assessment (a long written test held near the end of semester to assess students’ overall comprehension of the course content matters); and Mid-term exam (a major written exam: objective and subjective types).						
準備学修 の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Introduction: Review of Basic Concepts Related	PPP-presentation, lecture, discussion	Course Orientation
2	Life Existence & Evolution Theory	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Human Origins set 1
3	Scientific Search for Human Origins (Introduction to how to do self-studies)	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Human Origins set 2
4	Characteristics of Human Behaviors	Self-studies and reports	Guideline for self-studies Research in the library
5	Development of Human Characteristics and Psychological Traits	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Early Human Behaviors and psychological traits
6	Development of Human Mind; Formative Assessment	PPP-presentation, lecture, discussion; Evaluating students’ in-progress learning	Handout for reading: Human mind; Questionnaires for formative assessment

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	Stages of Development of Consciousness Feedback on the Formative Assessment	PPP-presentation, lecture, discussion; Returning the Formative Assessment and going over results	Handout for reading: Development of Consciousness
8	Introduction to Moral Development; Mid-term Exam	Film show; Written exam	Handout for reading: Stages of Moral Development; Discussion on the films; Objective and subjective tests
9	Moral Development Theory; Feedback on the Mid-term Exam	PPP-presentation, lecture, discussion; Returning the Mid-term Exam and going over results	Handout for reading: Moral Development Theory
10	Moral Issues—Case studies	Individual and group discussion	Case studies of some Moral issues for an individual analysis and reports, and for group work prepared for an in-class report and discussion
11	Human Freedom and Free Will	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Human Freedom
12	Socialization: Maturity and Eros	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Personality Theory
13	Current Issues: Globally and Locally (1)	A short film show, discussion	Film shows based on “Selective Issues” for in-class discuss and for an individual critics
14	Current Issues: Globally and Locally (2) Summative Assessment	A short film show & discussion; Assessing students’ overall comprehension of the course content matters	Film shows based on “Selective Issues” for in-class discuss; Questionnaires for summative assessment
15	Course review and Conclusion; Feedback on the Summative Assessment	Discussion; Returning the Summative Assessment and going over results	Wrapping-up materials from some crucial questions

テキスト	Articles taken from various sources will be given to students according to the topics related in a form of class handouts which are selected, edited and / or written by the teacher of this course.
履修条件、 前提科目	TOEIC score:400 or above
その他 特記事項	15回の授業に加え、上智学院理事長による人間学合同授業が行われるので、必ず出席すること。

科目名	SCH101: 人間学Ⅱ					担当教員	岩崎 明子	
開講期	秋	開講時限	水1限	研究室	4213	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1,2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	関わりの中で成長する人間、対話、和解とゆるし、生きがい、希望							
授業の概要	人間学Ⅰに引き続き、かかわりを生きる人間の諸側面を考えていく。キリスト教ヒューマンイズムの精神に基づいた人間学が求める「あるべき人間の姿とは何か」を事例や新聞記事や記録ビデオ、或いは映像の教材を視聴し、現代社会や世界が抱えている様々な人間の問題に触れながら考察していく。毎回のテーマは、事前に提示された記事を精読し書きとめた考察をもとに意見交換後、まとめを発表する形式で深めていく。							
達成目標	自分を取り巻く世界の現実を深く知って、家族、社会、国家、世界の中で人間の相互理解と共存、平和、いのちの尊厳の意義をより深く理解し、自らの成長課題とともに将来に対する展望を見出していく。							
到達目標	①現代社会の様々な人間の問題の事例を知り、考察を深める。 ②記事、映像、事例に対する自分の意見を論理的に文章にまとめる。 ③意見交換では、事例と自分の意見の関連性を論理的に説明でき、他者と意見交換しながら話し合いをまとめ、発表できる力を養う。 ④中間レポートや期末レポートでは、現代社会の問題からテーマに沿ったサブトピックを選択し、必要なりサーチをした後で、小論文形式にまとめる。 ⑤期末課題のテーマでスピーチを行う。							
評価方法	コメントシート、ノート提出(35%)、授業での発表・意見交換(15%)、中間レポート1,200字～2,000字(15%)、期末レポート2,400字～4,000字(20%)、スピーチ(15%)							
評価基準	①コメントシートとノート：問題意識をもち事例を考察し、客観的な視点も含めた文章を書いている。様々な教材からの的確な引用をして、論理的な文章を書いている。 ②意見交換・話し合い：コーディネーターや記録、発表の役割を積極的に果たし、課題に適した質疑応答を行うことができ、話し合いを深めることに貢献する。 ③中間課題：2回から7回までの講義の内容を参照しつつ、現代家族または現代社会の問題を取り上げリサーチ後、小論文形式(的確な主題、序論、本論、参照例、考察、結論、資料引用などがある)に明確にまとめている。 ④期末課題：テーマを選択後、それに関する書籍を2冊以上参照し、アカデミックなレポートの書き方に従って、自分の考察を論理的にまとめている。 ⑤スピーチ：自分の期末課題の主題を、十分な根拠と、的確な例を取り上げてアカデミックに、しかし独自性をもって説明し発表している。(10分間) 尚、期末レポートの課題提出が無い場合は、発表は評価の対象とならない。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	議題の概要説明と自己紹介 対話の大切さ	講義、DVD、討議 コメントシート	人間学Ⅰで興味を持ったテーマに関する意見を書く
2	家族とのかかわり(1) —家族の問題—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
3	家族とのかかわり(2) —教育と成長の問題—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
4	社会とのかかわり(1) —個人の人権と尊厳とは—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
5	社会とのかかわり(2) —心を育てる教育とは—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
6	社会とのかかわり(3) —福祉的なコミュニティとは—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
7	世界とのかかわり(1) —差別意識 vs 多文化共生社会—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する <u>中間レポートの提出</u>
8	世界とのかかわり(2) —貧困と格差 vs 分かち合い—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
9	世界とのかかわり(3) —争い vs 和解とゆるし—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する <u>期末課題テーマ提出</u>
10	いのちの意義について(1) —赤ちゃんのいのちを守るために—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
11	いのちの意義について(2) —生きがいは、生きる希望とは—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する <u>期末課題アウトライン提出</u>
12	いのちの意義について(3) —ホスピス・終末医療の現場から—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する
13	人生の意義とキリスト教について —ある人の生涯を通して考える—	講義、DVD、討議 コメントシート	事前課題の考察を記述する 期末発表のレジメ用意
14	期末テーマについての発表	口頭発表、意見交換、 評価	<u>発表の配布レジメ提出</u>
15	発表の続きとまとめ	口頭発表、意見交換、 評価	期末課題の提出期限

テキスト	新聞記事配布資料、人間学 I テキスト(上智大学短期大学部編『かかわりの人間学』)を参照する。
参考書	ハイメ・カスタニェダ+井上英治編『現代人間学』(春秋社)
その他 特記事項	問題意識をもって各資料を通読し、話し合いでは互いに相手の意見を傾聴し学び合う機会を大切にできる学生を歓迎します

科目名	SCH101: 人間学Ⅱ					担当教員	丹木 博一	
開講期	秋	開講時限	水2限	研究室	4214	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	人間のいのちの意味、謙遜、ゆるし、愛、希望							
授業の概要	真の自己とは何か、私たちがこの世に生きる意味は何であるかを、キリスト教的人間観に照らして考察する。イエス・キリストをはじめ、私たちが模範とすべき生き方を貫いた先人達の生き様を振り返り、私たちの人生にはどのような可能性と課題が与えられているかを模索する。							
達成目標	キリスト教的人間観の基本を理解した上で、人生の意味について問いを提起し、自分自身の生き方の模範を探し求めながら、問いを追求していくことができる。							
到達目標	①キリスト教的人間観の基本を理解する。 ②イエス・キリストの生涯とその意味を理解する。 ③尊敬すべき先人たちの生き様に学び、自己本来の生き方を問い求める。 ④宗教と文化の関係を自分自身の問題として捉え直す。							
評価方法	①毎回の事前課題の提出(15%)、②授業毎のリアクションペーパー(15%)、③中間課題(1,200字以上の小レポート)(20%)、④期末課題(2,000字以上のレポート)(50%)							
評価基準	①毎回の事前課題の提出：課題となる準備学修を行い、成果物を毎回提出する。 ②リアクションペーパー：授業内容を踏まえ、自分の意見や疑問を分かりやすく記述できる。 ③中間課題：自分にとって切実な人生への問いを提起した上で、尊敬に値する生き方を全うしたと見なしうる先人を一人取り上げ、その人がこの問いにどのように答えようとしたかを分かりやすく論じることができる。 ④期末課題：「よき人生はいかなる生き方によって可能か」という問いについて、2,000字以上の小論文を作成する。最低一冊の参考文献を読み、参考文献の筆者の言葉と自分自身の言葉を区別しながら、参考文献の内容を要約した上で、自分の考えを分かりやすく展開できる。巻末に文献表を付すこと。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	導入 宮沢賢治の生き方	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『まことの自分を生きる』第1章宮沢賢治を要約する。
2	芭蕉の生き方	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『まことの自分を生きる』第2章芭蕉を要約する。
3	西行の生き方	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『まことの自分を生きる』第3章西行を要約する。
4	良寛の生き方	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『まことの自分を生きる』第4章良寛を要約する。
5	イエスの生き方	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『まことの自分を生きる』第5章イエスを要約する。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
6	イエスの教えについて考える	講義、DVD視聴、分かち合いとディスカッション、リアペ	『新約聖書』の「ルカ福音書」を読み、印象に残ったエピソードについて考察する。
7	イエスの行為について考える	講義、DVD視聴、若立ち会いとディスカッション、リアペ	「ルカ福音書」を読み、印象に残ったもう一つのエピソードについて考察する。 中間課題提出
8	イエスの福音と日本の文化	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『イエスへの旅』第1部第1～2章を要約する。
9	罪と恥 ※中間課題に対するコメント	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『イエスへの旅』第1部第3～4章を要約する。
10	キリストに従って生きる	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『イエスへの旅』第1部第5～6章を要約する。
11	福音を伝える生き方	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『イエスへの旅』第2部第7章を要約する。
12	キリスト教の多様化と本質	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『イエスへの旅』第2部第8章を要約する。
13	日本における福音の意味	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『イエスへの旅』第2部第9章を要約する。 期末課題提出
14	赦されること・赦すこと	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『イエスへの旅』第3部前半を要約する。
15	生まれ変わって生きる ※期末課題に対するコメント	講義、ディスカッション、リアクションペーパー	『イエスへの旅』第3部後半を要約する。

テキスト	① 井上洋治『井上洋治著作選集7:まことの自分を生きる・イエスへの旅』(日本基督教団出版局) ② 『新約聖書』(「人間学I」で配布したもの)
参考書	若松英輔『生きる哲学』(文春新書)
その他 特記事項	活発な意見交換を望む。

科目名	SCH101: 人間学Ⅱ (S)					担当教員	W. Nampet	
開講期	秋	開講時限	水 2 限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	1, 2	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					1-①, 2-①	
キーワード	Nature, Societies, Nation, Culture, Family, Social Obligation, Religion, Religious beliefs and Faith							
授業の 概要	The course primarily focuses on perspectives of human relationships within nature and societies. Specially, it deals with both personal and collective relationships within the family, other persons, communities, the nation and the natural environments with ethical and intellectual awareness, obligations and responsibilities. Some complex issues and deeper perspectives such as life and death, faith, belief, and religion will be also introduced with regard to human life and dignity. This course also introduces a basic principle of how to conduct a research in social sciences. Thus, students by pair are required to conduct research field work: practice of data collection twice.							
達成目標	In connection with the course Philosophical Anthropology I, it aims to help students to gain their better understanding and appreciation of not only human growth and relationships existing in natural environment, the nation, cultural societies and family; but also deeper perspectives on human life (i.e., life and death, faith and religion); and to apply their understanding as such in contemporary issues and problems with regard to human life and relationships as such.							
到達目標	By the end of the semester, students will be able to describe the main aspects of human relations to the family, the society, the nation, the natural environments, and the global community; and to discuss particular deeper dimensions of human life and death, faith and religions; and contemporarily social problems and issues concerning such human relationships and dignity.							
評価方法	Class participation (30%), Class assignments (20%), Formative assessment (15%), Mid-term exam (20%), Summative assessment (15%)							
評価基準	Class participation (regularly-actively attending classes, a daily quiz of knowledge gained from the previous lesson, individual idea contributions and asking questions, and group discussions); Class assignments (short reports, research field works, film critiques, reading assignments, homework, and self-studies); Formative assessment (a short test held two weeks prior to the Mid-term to evaluate students' in-progress learning); Summative assessment (a long written test held near the end of semester to assess students' overall comprehension of the course content matters); and Mid-term exam (a major written exam: objective and subjective types).							
準備学修 の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Orientation: Introduction to the course	PPP-presentation: lecture	Course Orientations
2	Eco-relationships: Relation to Nature: Oriental perspectives (Introduction to Research I: What is research?)	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Oriental Perspectives on Nature
3	Eco-relationships: Relation to Nature: Western perspectives (Introduction to Research II: How to do qualitative research)	PPP-presentation, lecture, discussion	Handout for reading: Western Perspectives on Nature
4	Inter- & Intra-relationships: Relation to Other Persons: What are Human relationships? (Introduction to Research III: Doing field work)	PPP-presentation, lecture, film show, discussion	Handout for reading: Social Context of Human Development & Relationships
5	Practice: Data Collection Field Work Research I	Guideline of Data Collection I	Field Work Research I

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
6	Inter- & Intra-relationships: Relation to Other Persons: Man and Family, Peers & Colleagues, etc. Formative Assessment	PPP-presentation, lecture, discussion; Evaluating students' in-progress learning	Handout for reading: Socialization; Questionnaires for formative assessment
7	Inter- & Intra-relationships: Relation to Other Person: Maturity & Love Feedback on the Formative Assessment	PPP-presentation, lecture, discussion; Returning the Formative Assessment and going over results	Handout for reading: Maturity for Affection and Love
8	Practice: Data Analysis Field Work Research II:	Questionnaires; Guideline for Interview	Field Work Research II
9	Mid-term exam Research Results & Reports	Written examination; Students' presentations of fieldwork	Objective and subjective tests
10	Endo- & Exo-relationships: Introduction to Japanese Culture & Society Feedback on the Mid-term Exam	PPP-presentation, lecture, discussion; Returning the Mid-term Exam and going over results	Handout for reading: Japanese culture Set 1
11	Endo- & Exo-relationships: Japanese culture: Its Roots and Influences	PPP-presentation, lecture, discussion,	Handout for reading: Japanese culture Set 2
12	Endo- & Exo-relationships: Relation to Society: Man and Modern Worldview	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Man and Modern Worldview
13	Inner- & Extra-Relationship: Relation to Deeper Perspectives: Life and death	PPP-presentation, lecture, discussion, film show	Handout for reading: Life Span, Life & Death
14	Inner- & Extra-Relationship: Christian View on Human Being Religious Beliefs and Faith Summative Assessment	PPP-presentation, lecture, discussion; Assessing students' overall comprehension of the course content matters	Handout for reading: Religion & Religious Beliefs / Piety; Christian View on Human Being; Questionnaires for summative assessment
15	Course review and Conclusion; Feedback on the Summative Assessment	Discussion; Returning the Summative Assessment and going over results	Wrapping-up materials from some crucial questions

テキスト	Articles taken from various sources will be given to students according to the topics related in a form of class handouts which are selected, edited and / or written by the teacher of this course.
履修条件、 前提科目	TOEIC score:400 or above

科目名	HST200: 歴史学					担当教員	森下 園	
開講期	春	開講時限	月木5限	研究室	4202	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	歴史学の歴史、近代歴史学の成立、史料論、歴史理論、国際歴史認識問題、歴史教育							
授業の概要	学問としての「歴史学」が近代にどのように成立したのか、「歴史学」をめぐるどんな疑問が提示され、どんな議論がなされてきたのかを学ぶ。特に「唯一絶対の歴史」にひそむ西欧中心主義と、近代国家のための「物語」として創出された「他者を排除する歴史」の問題について考えていく。「世界史」の講義ではないので、注意すること。							
達成目標	受講生が歴史学とはどのような学問であり、どのように成立したのかを理解した上で、歴史認識をめぐる議論や歴史教育について、専門用語・学問的な概念を用いて各自の見解を積極的に述べ、記述できるようにすることが目標である。							
到達目標	①次回授業プリントおよび参考資料を読み、事典・参考書で調べることで用語を理解し(予習の習慣)、講義後に授業課題に授業の要約や質問を記入することで、各回のポイントを把握できるようになる。②授業中に発言を促すので、自分の言葉で理解した内容を述べられるようになる。③試験では理解した内容を論述できるようになる。							
評価方法	①初回・15回・27回・最終回を除く各回提出の授業課題：2%×26回=52%、 ②授業中の教員からの質問に対する答え・意見の発言など：1%×26回=26%、 ③ペン書き論述式の授業内試験：11%×2回=22%。							
評価基準	①授業課題：要点を整理して自分の言葉でまとめているか、提出期限を守っているかを評価する。研究倫理を守らない場合は0点、なお欠席した回の授業課題は採点対象にならない。 ②授業中の発言：教員の問いに答えるだけでなく、意見・質問も評価する。 ③授業内試験：授業内容・用語を理解したうえで論述しているかを見る。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	講義の概要説明、歴史学の諸問題について、研究倫理について	講義、質疑応答	1回授業内容の復習 2回授業プリントの予習
2	歴史学の歴史(1)古代・中世ヨーロッパ	講義、質疑応答	2回授業課題 3回授業プリントの予習
3	歴史学の歴史(2)ルネッサンスから啓蒙時代	講義、質疑応答	3回授業課題 4回授業プリントの予習
4	歴史学の歴史(3)中国と日本	講義、質疑応答	4回授業課題 5回授業プリントの予習
5	歴史学の歴史(4)ランケ史学 — 近代歴史学の登場	講義、質疑応答	5回授業課題 6回授業プリントの予習
6	歴史学の歴史(5)アナル派 — 「民衆」の歴史	講義、質疑応答	6回授業課題 7回授業プリントの予習
7	歴史学の歴史(6)歴史学の作法 — 史料批判と先行研究	講義、質疑応答	7回授業課題 8回授業プリントの予習
8	史料を読むために(1)古書体学、古書冊学、文書形式学	講義、質疑応答	8回授業課題 9回授業プリントの予習
9	史料を読むために(2)暦について	講義、質疑応答	9回授業課題 10回授業プリントの予習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	史料を読むために(3) 画像解釈学と絵画資料	講義、質疑応答	10回授業課題 11回授業プリントの予習
11	史料を読むために(4) 考古学と文化人類学	講義、質疑応答	11回授業課題 12回授業プリントの予習
12	史料を読むために(5) オーラルヒストリー	講義、質疑応答	12回授業課題 13回授業プリントの予習
13	理論(1) 西欧哲学の世界観	講義、質疑応答	13回授業課題 14回授業プリントの予習
14	理論(2) 構造主義とポスト構造主義	講義、質疑応答	14回授業課題 授業内試験の準備
15	研究紹介 マルク・ブロック『王の奇跡』と第1回授業内試験	講義、質疑応答、試験(30分)	16回授業プリントの予習
16	理論(3) 言語論的転回と歴史学	講義、質疑応答	16回授業課題 17回授業プリントの予習
17	理論(4) 文学とポストコロニアリズム	講義、質疑応答	17回授業課題 18回授業プリントの予習
18	理論(5) 歴史修正主義と社会構築主義	講義、質疑応答	18回授業課題 19回授業プリントの予習
19	理論(6) ジェンダーと歴史学	講義、質疑応答	19回授業課題 20回授業プリントの予習
20	研究紹介 ミッシェル・フーコー『監獄の歴史』と第1回試験の返却と解説	講義、質疑応答、試験返却と解説	20回授業課題 21回授業プリントの予習
21	歴史とメディア(1) 写本からマス・メディアの登場まで	講義、質疑応答	21回授業課題 22回授業プリントの予習
22	歴史とメディア(2) 現代メディアの問題点	講義、質疑応答	22回授業課題 23回授業プリントの予習
23	歴史教育(1) 国際歴史教科書問題 —ヨーロッパ	講義、質疑応答	23回授業課題 24回授業プリントの予習
24	歴史教育(2) 国際歴史教科書問題 —日本と韓国	講義、質疑応答	24回授業課題 25回授業プリントの予習
25	歴史教育(3) 英国の歴史教育	講義、質疑応答	25回授業課題 26回授業プリントの予習
26	震災と歴史	講義、質疑応答	26回授業課題 授業内試験の準備
27	まとめ、第2回授業内試験	講義、質疑応答、試験(40分)	28回授業プリントの予習
28	研究紹介 網野善彦『異形の王権』	講義、質疑応答	28回授業課題 29回授業プリントの予習
29	研究紹介 ナタリー・Z・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール』	講義、質疑応答	29回授業課題
30	歴史学の諸問題のまとめ、第2回試験の返却と解説	講義、質疑応答、試験返却と解説	これまでの総括

テキスト	なし。授業内容に関するプリントを Loyola 授業掲示板で配付するので各自が授業前に印刷して持ってくること。
参考書	J・H・アーノルド『1冊でわかる歴史学』(岩波書店)

科目名	PHL200: 哲学					担当教員	丹木 博一	
開講期	春	開講時限	火金4限	研究室	4214	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	世界の現れ、存在と無、時間、身体、言語、自己と他者、世界に対する態度							
授業の概要	世界が私に現れ、その世界のうちに私が住まうということの謎を、認識論、存在論、行為論、他者論などさまざまな視点から哲学的に考察する。主要な哲学者の言葉をていねいに読み解きながら、代表的な哲学的問いに親しみ、ディスカッションを通して互いに考えを鍛え上げていく。							
達成目標	何気ない日々の営みの中にさまざまな哲学的な謎が潜んでいるということに気づき、その謎の成り立ちを西洋哲学の歴史に照らして考え進めることができる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋哲学史を彩る大哲学者たちの思想の基本を理解し、それを表現できる。</li> <li>・哲学的問いの重要性を自覚し、自ら問いを提起することができる。</li> <li>・自分が立てた問いについて論理的に筋道を立てて考察を進めることができる。</li> </ul>							
評価方法	授業毎の課題 (15%)、授業毎のリアクションペーパー (15%)、中間レポート (1,500字以上) (20%)、期末レポート (2,500字以上) (50%)							
評価基準	<p>授業毎の課題: 事前に指示した通り課題を行い提出できたかどうか。</p> <p>リアクションペーパー: 講義内容を正しく理解し、問題関心を明記できるかどうか。</p> <p>中間レポート: 哲学的問いを提起し、自分の言葉で論理的に論述展開できるかどうか。</p> <p>期末レポート: 最低一冊参考文献を読み、関心を寄せるテーマについて自分の言葉で問いを提起し、その問いに関するさまざまな考えを理解した上で、理由を挙げて自分の考えを自分の言葉で論じることができるかどうか。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	哲学とは何か 真に存在するものとは何か	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	教科書①pp.i-iii 教科書②p.i
2	世界が見えるということの謎(1) 世界への窓としての感覚	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.39-56 ロックについての予習復習
3	世界が見えるということの謎(2) 感覚の誤りやすさの意味	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.1-20 デカルトについての予習復習
4	世界が見えるということの謎(3) 世界全体の始まりへの問い	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.1-14 タレスについての予習復習
5	世界が見えるということの謎(4) 世界のリアリティへの問い	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.57-76 ソフィストとソクラテスの予習復習
6	有ることと無いこととの関係(1) 存在の根拠への問いと想像力の働き	講義・DVD視聴 ディスカッション・リアペ	教科書①pp.15-28 ヘラクレイトスの予習復習
7	有ることと無いこととの関係(2) 生成変化の可能性	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.97-116 アリストテレスの予習復習
8	有ることと無いこととの関係(3) 対象喪失の意味	講義・絵本朗読 ディスカッション・リアペ	教科書①pp.29-42 エレア派についての予習復習
9	時間とは何か(1) 過去 過去は過ぎ去ってしまったのか	講義・DVD視聴 ディスカッション・リアペ	教科書①pp.165-184 アウグスティヌスの予習復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	時間とは何か(2) 未来 まだない未来に何の意味があるのか	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.237-254 オッカムについての予習復習
11	時間とは何か(3) 現在 現在は単なる瞬間だろうか	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.209-224 ベルクソンについての予習復習
12	身体の重層性(1) 客体 身体があるからこそその不自由	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.77-96 プラトンについての予習復習
13	身体の重層性(2) 媒体 触れられつつ触れるということ	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.75-90 バークリについての予習復習
14	身体の重層性(3) 主体 身体を動かすことができるという謎	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.21-38 マルブランシュの予習復習
15	言語の多面性(1) 記号 言葉の起源はどこにある	講義・DVD 視聴 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.107-122・コンディ ヤック・中間レポート提出
16	言語の多面性(2) 個と普遍 言葉が言葉だと分かるのはなぜか	講義・DVD 視聴 ディスカッション・リアペ	教科書①pp.185-200 ボエティウスの予習復習
17	言語の多面性(3) 世界の表現 言葉以前の世界に戻れるか	講義・詩の朗読 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.123-142 カントについての予習復習
18	感情の力(1) 世界を開示する働き：無感 動を理想とすべきか ※中間レポート講評	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.117-132 ストア派についての予習復習
19	感情の力(2) 世界を分割する働き 愛と憎しみは何を意味するか	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.43-56 エンペドクレスの予習復習
20	感情の力(3) 世界の様相を示す働き 驚きと存在の根拠への問い	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.217-236 トマス・アクィナスの予習復習
21	自己の成り立ち(1) 明証性と偶然性	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.1-20 デカルトについての予習復習
22	自己の成り立ち(2) わたしの自己同一性の諸相	講義・詩の朗読 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.91-106 ヒュームについての予習復習
23	自己の成り立ち(3) 世界の表現としてのわたし	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.57-74 ライブニッツの予習復習
24	他者との関係(1) 自己と他者の境界	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.143-158 フィヒテについての予習復習
25	他者との関係(2) 自己と他者の交わり	講義・DVD 視聴 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.159-176 ヘーゲルについての予習復習
26	他者との関係(3) 他者への超越	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.241-258・レヴィナ ス・期末レポート提出
27	世界に対する態度(1) 意志と習慣	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.97-116 アリストテレスの予習復習
28	世界に対する態度(2) 思考と表現	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書①pp.201-216 偽ディオニシオスの予習復習
29	世界に対する態度(3) 世界のうちに生きる意義	講義・DVD 視聴 ディスカッション・リアペ	教科書②pp.177-192 ニーチェについての予習復習
30	まとめ：哲学的問いを生きる ※期末レポートに対するコメント	講義・ディスカッション リアクションペーパー	教科書②pp.225-240 フッサールについての予習復習

テキスト	①熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ』(岩波新書) ②熊野純彦『西洋哲学史—近代から現代へ』(岩波新書)
参考書	伊藤邦武『物語 西洋哲学史』(中公新書) 新田義弘『哲学の歴史』(講談社現代新書)
その他 特記事項	主体的な関心をもって授業に臨んで欲しい。分からない点や疑問点がある場合は、質問を歓迎する。

科目名	PHL200: 哲学					担当教員	上田 圭委子	
開講期	秋	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	存在、自然、ロゴス、真理、神、意識、経験、生命、時間							
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>西洋哲学の流れを、古代・中世・近代の偉大な哲学者たちの言葉に直接に触れながら学び、それを通して、基礎的な哲学上の概念についても理解を深めてゆく。</li> <li>毎回、主題に関わる哲学の問いを一つ取り上げ、各自が考察する時間を取る。</li> </ul>							
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで自明だと思っていたこと、当たり前だと思っていたことが、よく考えると自明とは言えないことを発見し、偉大な過去の哲学者のテキストとの対話を通して日常の「当たり前」を新たな視点から見直してみることができる。</li> <li>さまざまなことを、自分なりにゼロから考えてみることの楽しさを味わう。</li> </ul>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>西洋哲学の歴史と哲学の基本概念を理解し、国際人として自信をもって世界中の人々と対話し、自らの考えを明確に伝達できるようになるための教養の基礎を身につける。</li> <li>ものごとを、自らの頭で筋道立てて考え、他者の見解も考慮しつつも自分なりの判断をするために必要な基礎力を、哲学の学習を通じて養う。</li> </ul>							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内の積極的な発言・質問およびリアクションペーパー(40%)、中間レポート(1,500字以上)(20%)、期末レポート(2,500字以上)(40%)</li> </ul>							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容をよく受け止め、自分なりに考え、それを授業における発言・質問、およびリアクションペーパーを通して表現できているか。</li> <li>中間レポート：授業において取り上げられた哲学者の書物を読み、その内容を適切にまとめることができているか。</li> <li>期末レポート：自らの関心を寄せる問題を一つ取り上げ、それについて、さまざまな見方ありうることを考慮しつつ、自分なりの考えを説得力を持って展開できているか。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	古代ギリシアにおける哲学の始まり① タレス、アナクシマン드로ス	講義、リアクションペーパー	教科書 pp.1-14 を読んで復習する
2	古代ギリシアにおける哲学の始まり② ピタゴラスとその学派、ヘラクレイトス	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	教科書 pp.15-28 を読んで復習する
3	「ある」とは何かー井上忠の註釈とともにパルメニデスの断片を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	教科書 pp.29-42 とプリント1 を読んで復習する
4	「無い」ということは「ある」のかーエンペドクレス、アナクサゴラス、デモクリトス	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	教科書 pp.43-56 とプリント2 を読んで復習する
5	無知の知ープラトン『ソクラテスの弁明』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	教科書 pp.57-76 とプリント3 を読んで復習する
6	ほんとうに在るものとは何かープラトン『国家』の三つの比喩を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	教科書 pp.77-96 とプリント4 を読んで復習する
7	世界もわたしの魂も存在し、動いているーアリストテレスの存在論・靈魂論・自然論	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	教科書 pp.97-116 とプリント5 を読んで復習する
8	人はいかに生きるべきかーアリストテレス『ニコマコス倫理学』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント6 を読んで復習する

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	ストア派の哲学―エピクテトス『提要』とマルクス・アウレリウス『自省録』の言葉	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	教科書 pp.117-132 とプリント7を読んで復習する
10	新プラトン主義―プロティノス『善なるもの一なるもの』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	教科書 pp.149-164 とプリント8を読んで復習する
11	神と魂を知りたい―キリスト教哲学の起源と、アウグスティヌスの思想	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	教科書 pp.165-184 とプリント9を読んで復習する
12	牢獄の中にあっても、自由な精神の飛翔―ボエティウス『哲学の慰め』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント10を読んで復習する
13	偽ディオニシオス『神名論』とアンセルムス『モノロギオン』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント11の復習と中間レポートの構想を立てること
14	「神はすべての事物のうちに存在するか」―トマス・アクィナス『神学大全』I部8問	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント12の復習と中間レポートの作成準備
15	14世紀スコラ哲学と、中世の神秘思想―エックハルトの説教を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント13の復習と中間レポートの作成
16	疑っている私の存在は疑えない、だから私は「ある」―デカルト『哲学原理』の抜粋	講義、中間レポート提出と質疑応答	プリント14を読んで復習する
17	すべては神のうちにある―スピノザ『エチカ』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、レポート返却	プリント15を読んで復習する
18	イギリス経験論―ロック『人間知性論』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント16を読んで復習する
19	モノダ論―ライプニッツ『モノダロジー』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント17を読んで復習する
20	「存在しているとは、知覚されていることである」―バークリーの『人知原理論』	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント18を読んで復習する
21	原因と結果の関係とはどこに見出せるのか―ヒューム『人性論』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント19を読んで復習する
22	ことばの起源への考察―ルソーとヘルダーの『言語起源論』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント20を読んで復習する
23	人間が知りうること、知りえないことは何か―カント『純粋理性批判』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント21を読んで復習する
24	道徳法則に従って行為する自由―カント『実践理性批判』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント22を読んで復習する
25	美しいもの、崇高なものとの関わり―カント『判断力批判』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント23を読んで復習する
26	知性の未成年状態からの脱却―カント『啓蒙とは何か』を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント24の復習と期末レポートの構想を練ること
27	平和はいかにしてもたらされるべきか―カント『永遠平和のために』を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント25の復習と期末レポートの作成
28	意識の根底にあるもの―フィヒテ『全知識学の基礎』(抜粋)を読む	講義、リアクションペーパー、哲学的対話	プリント26の復習と期末レポートの仕上げ
29	そのつどの私という存在とはなにか―ハイデガー『存在と時間』の抜粋を読む	講義、リアクションペーパー、レポート提出	プリント27を読んで復習する
30	まとめ	講義、期末レポート返却、質疑応答	返却された期末レポートの講評の確認

テキスト	熊野純彦『西洋哲学史―古代から中世へ』(岩波新書)
参考書	クラウス・リーゼンフーパー『西洋古代・中世哲学史』(平凡社ライブラリー) 熊野純彦『西洋哲学史―近代から現代へ』(岩波新書)
その他 特記事項	疑問点はどんな小さなことでも遠慮せず、積極的に質問をしていただきたい。

科目名	REL200: 宗教学					担当教員	M. Lupas	
開講期	春	開講時限	火金4限	研究室	4206	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	Bible, Art, Literature, Music, Opera, Close reading							
授業の概要	This course offers students a chance to closely read selected passages of the Bible, an essential text for several of the world's major religions. Students will read the text and write short summaries in English. They will also examine how the stories and texts have been rendered in art. As a final project, students can present a biblical text of their choice and its interpretation in a work of art.							
達成目標	The goal of this course is to familiarize students with the most translated and most published text in the world. Students will read closely a survey of some of the important passages of the Bible. They will learn about the view of life and the lessons expressed by the Bible stories. They will also become aware of some of the works of art inspired by the Bible. They will practice comparing the text with its interpretations in various arts.							
到達目標	Students will be able to do the following: --Read closely and summarize short prose texts --Gain knowledge of the characters and plot of some of the major Bible stories --Examine some works of art based on the Bible and how they interpret the biblical text in their specific way --Prepare a structured presentation analyzing a short biblical text and its interpretation in one work of art							
評価方法	Participation in class activities 20%; Homework (20 written summaries and mini-presentations) 40%; Assessment (2 short tests) 20%; Final Project 20%							
評価基準	Participation: student's active effort to do class activities; Homework: completing and submitting summaries of the assigned reading texts and completing mini-presentations presenting the characters in 1 work of art based on the Bible; Assessment: two tests with multiple choice and free answers evaluating students' knowledge of the characters and plots in the texts studied and of certain major art works based on the Bible stories; Final project: making a presentation (following presentation guidelines in <i>English Essentials</i> ) of one work of art (painting, song) based on the Bible and explaining the text of the Bible that is represented, and showing how the work of art represents the text.							
準備学修の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Introduction to the Course: Why Read the Bible? The Bible as a library	Lecture, pair work	Prepare short answer: why I am interested in this class?
2	Stories of Creation, Adam & Eve, Cain & Abel, <b>Genesis 1-5</b>	Lecture, group work	Read handout and write a summary
3	Noah. <b>Genesis 6-9</b>	Lecture, group work	Read handout and write a summary
4	The Story of Abraham, Sarah <b>Genesis 12-20</b>	Lecture, pair work	Read handout and write a summary
5	The story of Isaac, Ishmael, Jacob <b>Genesis 21-36</b>	Lecture, group work, mini-presentation	Read handout and write a summary
6	The story of Joseph <b>Genesis 37-50</b>	Lecture, pair work, mini-presentation	Read handout and write a summary
7	The Story of Joseph in Egypt	Lecture, group work, mini-presentation	Read handout and write a summary

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
8	The Story of Moses, the Passover, <b>Exodus 1-5:23</b>	Lecture, pair work, mini-presentation	Read handout and write a summary
9	The Ten Commandments <b>Exodus 12-20</b>	Lecture, group work, mini-presentation	Read handout and write a summary
10	The Story of Samson <b>Book of Judges 13-16</b>	Lecture, pair work, mini-presentation	Read handout and write a summary
11	The Story of Ruth, <b>Ruth 1-4</b>	Lecture, group work, mini-presentation	Read handout and write a summary
12	The story of David, Saul and Jonathan <b>1 Sam 8-12; 1 Sam 15-21; 22-27</b>	Lecture, pair work, mini-presentation	Read handout and write a summary
13	The Story of David & Solomon <b>2Sam7-12:25; 1 Kings 3-5; 8-11</b>	Lecture, group work, mini-presentation	Read handout and write a summary
14	The Story of Esther ; The book of Jonah <b>Esther 1-10; Jonah</b>	Lecture, pair work, mini-presentation	Read handout and write a summary
15	Book of Job <b>Job 1-10; 19-20; 38-42</b>	Lecture, group work, mini-presentation	Read handout and write a summary
16	The Story of Daniel <b>Book of Daniel 1-7; 13</b>	Lecture, pair work, mini-presentation	Read handout and write a summary
17	Catching up	Lecture, group work, mini-presentation	Review notes, prepare questions
18	Catching Up. Short Test 1	Review, test	Review notes
19	Feedback on Short Test 1 <b>The Book of Psalms</b>	Lecture, singing	Read handout and write a summary
20	The Infancy narratives in Matthew and Luke <b>Matthew 1-2; Luke 1-2</b>	Lecture, group work	Read handout and write a summary
21	The Infancy narratives in Matthew and Luke <b>Matthew 1-2; Luke 1-2</b>	Lecture, group work	Read handout and write a summary
22	The teachings & works of Jesus in Matthew <b>Matthew 3-12</b>	Lecture, pair work	Read handout and write a summary
23	Selected Parables in the gospels of Luke & Matthew	Lecture, group work	Read handout and write a summary
24	Selected Miracles in the gospels of Luke & Mathew	Lecture, pair work	Read handout and write a summary
25	The Gospels of St. Mark and St. John on Jesus' suffering, death and Resurrection	Lecture, group work	Read handout and write a summary
26	The descent of the Holy Spirit and preaching of the disciples	Lecture, pair work	Read handout and write a summary
27	Presentations of Projects, review for test	Presentations	Prepare project, review
28	Presentations of Projects, short test #2	Presentations, review, test	Prepare project, review notes
29	Feedback on short test 2 Presentations of Projects	Presentations	Prepare project
30	Biblical lands today	Video viewing	Reflection

テキスト	Original handouts containing the required reading passage and reading comprehension questions will be provided by the instructor.
参考書	<i>English Essentials: An Academic Skills Handbook (EE)</i> 『聖書：和英対照 = Good news Bible ; NITEV44DI』(日本聖書協会; 1997)

科目名	MUS200: 音楽					担当教員	北村 さおり	
開講期	秋	開講時限	月木2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	歌唱実技、呼吸、発声、発音、朗読、西洋音楽史、音楽鑑賞、オペラ、リート、合唱							
授業の概要	「朗読」「群読」「合唱」を通して、詩人、作曲家、演奏者の多様な解釈を探り、自己表現の方法と、他者との解釈の共有を体験する。西洋音楽史を時代様式や歴史的背景の知識を深めながら学ぶ。授業のまとめや用語を辞書で調べてくるなどの宿題を課する。試験では自筆ノートの持ち込みのみを許可とする。読譜力など専門的な音楽知識は必要としないが、実技や鑑賞への積極的取り組みを求める。							
達成目標	中世からロマン派までの音楽史の推移を理解し、芸術について考察する。 詩の朗読と歌曲・合唱演習、また、それらの発表を通し、表現者として、共演者として、聴衆としての価値観の共有体験をめざす。							
到達目標	美しい声、姿勢、発音、表情を習得することができる。皆で声を合わせて歌う喜びを知ることができる。音楽史を理解し、作品の解釈を試みることにより、自己と芸術との関わりを考え、自己表現の幅を広げることができる。							
評価方法	課題提出 1%×15回=15%、発表 10%、授業内試験 60%、授業への取り組み状況の評価 15%							
評価基準	課題提出：前回の授業のまとめができていないか、課題として出された予習ができていないか評価する。 発表：個人、またはグループで朗読に組み込み、発表する。 授業内試験：音楽史の理解度を2回の筆記試験で評価する。 授業への取り組み状況の評価：歌唱力や朗読技術の評価のみではない。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	講義の概要説明、呼吸法・姿勢のエクササイズ、校歌(斉唱)	講義、実技、ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
2	復習、発音・発声のエクササイズ 学生歌「英知の丘に」	講義、実技、ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
3	復習、しゃべり方・朗読のエクササイズ、学生歌「緑の丘」	講義、実技、ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
4	復習とエクササイズ 学生歌の歌詞解釈、朗読練習	講義、実技、ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
5	復習とエクササイズ 歌唱練習	講義、実技、ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
6	中世：グレゴリオ聖歌の鑑賞と歌唱 ルネサンス：教会音楽等	講義、鑑賞、ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
7	バロック前期：オペラ、器楽曲等	講義、鑑賞、ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
8	バロック後期：ヘンデル、バッハ	講義、鑑賞、ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
9	古典：ハイドン、モーツァルト	講義、鑑賞、ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	古典：ベートーヴェン	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
11	ロマン派：シューベルトの歌曲 「野ばら」等歌唱と解釈	講義、鑑賞、 ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
12	ロマン派：シューマンの歌曲とピアノ作品等	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
13	ロマン派：ショパン、リスト、その他	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
14	ロマン派：ブラームス、ワーグナー、マーラー、 R.シュトラウス、その他	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
15	ロマン派以降、音楽史のまとめ 試験準備	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
16	中間試験 採点、復習	講義、試験	ノートの整理 予習・復習課題
17	日本の歌：山田耕筰「からたちの花」歌唱と 解釈	講義、鑑賞、 ノート記入	ノート・楽譜の整理 予習・復習課題
18	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
19	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
20	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
21	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
22	合唱練習、朗読練習	実技	歌唱、朗読の予習・復習
23	イタリアオペラ モーツァルト～プッチーニ	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
24	オペラ DVD 鑑賞：ヴェルディ「椿姫」全曲 (前半)	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
25	オペラ DVD 鑑賞：ヴェルディ「椿姫」全曲 (後半)	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
26	バレエ DVD 鑑賞：チャイコフスキー「白鳥 の湖」全幕(前半)	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
27	バレエ DVD 鑑賞：チャイコフスキー「白鳥 の湖」全幕(後半)	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
28	後期試験 採点、復習	講義、試験	ノートの整理 予習・復習課題
29	DVD 鑑賞：コンサートや音楽祭など	講義、鑑賞、 ノート記入	ノートの整理 予習・復習課題
30	総括	講義	ノートの整理

テキスト	楽譜、朗読用テキスト、音楽史年表、音楽史、西洋史、鑑賞資料はプリントを配布する。
参考書	田村和紀夫『CD付徹底図解 クラシック音楽の世界』(新星出版社) 岡田暁生『西洋音楽史』(放送大学教材)

科目名	SOC200: 社会学					担当教員	田村 公人	
開講期	春/秋	開講時限	(春)月木3限 (秋)月木2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	社会学史、理論と方法、実証研究、現代日本社会、若者							
授業の 概要	この授業では、社会学という学問の基本的な学史、理論と方法について学ぶ。あわせて、現代日本のより具体的な社会現象、社会問題を扱った社会学の諸研究も適宜取り上げ、検討することを通して、教養としての社会学の理解に資する。							
達成目標	1. 社会学という学問の特徴について、理解できるようになる。 2. 社会学の基本にもとづいた洞察ができるようになる。							
到達目標	1. 社会学の基本的な学史、理論と方法を説明することができる。 2. 現代日本のより具体的な社会現象や社会問題について、社会的に洞察することができる。 3. 自ら問題関心のある社会現象や社会問題に着目し、かつ社会学の理論や方法を使いながら、自らの考えを提示することができる。							
評価方法	1. 授業時の積極参加 50% 2. 中間レポート 20% 3. 最終レポート 30%							
評価基準	1. 積極的に授業に参加しているかどうか。 2. 授業内容を踏まえ、中間レポート課題が取り組まれているかどうか。 3. 授業内容を踏まえ、かつ自らの考えが説得的に提示されている最終レポートとなっているかどうか。							
準備学修 の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	イントロダクション—高校までの「社会」と社会学の違い	講義、質疑応答	問題意識をもって臨む、講義内容の整理
2	社会学概史—ヨーロッパからアメリカへ	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
3	社会学の古典を読む—デュルケームの『自殺論』(自殺に注目する社会学的意義)	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
4	社会学の古典を読む—デュルケームの『自殺論』(自殺は何を明らかにしたのか)	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
5	社会学の古典を読む—デュルケームの『社会分業論』	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
6	社会学の古典を読む—ウェーバーの『プロテスタントの精神と資本主義の精神』	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
7	社会学の古典を読む—ジンメル『大都市の精神生活』	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
8	機能主義の社会学—マートンを中心として	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
9	機能主義の社会学—パーソンズを中心として	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	ミクロ社会学―ミードとシュッツを中心として	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
11	ミクロ社会学―ブルーマーとベッカーを中心として	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
12	ミクロ社会学―ゴフマンとガーフィンケルを中心として	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
13	新しい社会学の潮流―ギデンズとブルデューを中心として	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
14	新しい社会学の潮流―構築主義の社会学	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
15	中間的まとめ	講義、質疑応答	14回目までの講義内容の復習、中間レポートの提出
16	領域社会学―都市社会学(シカゴ学派)	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
17	領域社会学―都市社会学(新都市社会学)	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
18	領域社会学―文化社会学(消費文化論)	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
19	領域社会学―文化社会学(メディア論)	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
20	領域社会学―家族社会学(近代家族論)	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
21	領域社会学―家族社会学(家族の個人化)	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
22	社会調査論―サーベイとフィールドワーク	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
23	社会調査論―論文とエスノグラフィー	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
24	社会学は「若者の変貌」をどのように考えるか―アイデンティティと人間関係	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
25	社会学は「若者の変貌」をどのように考えるか―1980年代～1990年代	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
26	社会学は「若者の変貌」をどのように考えるか―1990年代～2000年代	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
27	社会学は「若者の変貌」をどのように考えるか―2000年代～2010年代	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
28	社会学は俳優を志す若者をどのように考えるか―方法論	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
29	社会学は俳優を志す若者をどのように考えるか―実証研究	講義、質疑応答	講義内容の整理、参考文献の一読
30	まとめ―教養としての社会学	講義、質疑応答	全授業内容の復習、最終レポートの提出

テキスト	特に指定しない。必要に応じて、各回の授業内容に関連した論文記事を配布する。
参考書	橋爪大三郎他著『社会学講義』(ちくま新書) 土井文博他編『はじめて学ぶ社会学―思想家たちとの対話』(ミネルヴァ書房)
その他特記事項	授業内で適宜、関連文献を紹介する。参考書とあわせて一読しつつ、主体的に講義に臨んでいただきたい。

科目名	LAW210: 日本国憲法				担当教員	土屋 志穂, 鈴木 詩衣菜		
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	憲法改正、基本的人権、自由権・社会権・平等権、国民主権、選挙、裁判、平和主義							
授業の概要	統治機構と人権の2本の柱に沿って、日本国憲法を中心に憲法で守られるべきものは何か、憲法に基づく行政制度はどのように運用されているのかなどを学ぶ。憲法に関する裁判判決では、何を基本として憲法の理念が維持されているのかを判例を参照しながら学んでいく。憲法と自分の周りの生活がどのように関係するのかを沢山考える。講義形式で行うが、多くの問いを投げかけるので積極的に参加してほしい。							
達成目標	憲法という「法律」、憲法の成り立ち、憲法により実現されている制度を学ぶことで、法律の知識や法的思考を身に付け、社会問題を法的な観点から分析・思考し、解決策を提示することができるようになる。							
到達目標	日本国憲法の成り立ち、基本原理、人権問題とは何か、平等権や自由権・社会権などの人権、統治機構、裁判の仕組みについて理解し、説明することができる。憲法改正について自分の見解を提示することができる。							
評価方法	小テスト(2回、20%)、期末試験(50%)、授業時の積極参加(10%)、授業内課題及び授業外課題(事後課題と18回のリアクションペーパー、20%)							
評価基準	小テスト: 講義のポイントを押さえているか。設題の趣旨に沿って答えているか。 期末試験: 憲法についての基本的知識を習得し、設題の趣旨に沿って答えているか。 授業時の積極参加: 事前課題を解答しているか。ディスカッションで私見を述べているか。 授業内課題及び授業外課題: 講義の内容を踏まえて課題に取り組んでいるか。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業進行説明(※シラバス持参のこと) 法とは? 憲法とは?	講義	【復習】憲法・憲法改正について自分の見解を考える
2	憲法とはどういう法か?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
3	憲法制定史 日本国憲法の成立に至るまで	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
4	憲法訴訟 憲法に関する裁判判決とは?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
5	統治機構①国民主権と象徴天皇制 「主権」とは何か?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
6	人権①人権総論 「人権」とは? 人権問題とは何か?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
7	小テスト①(15分) 人権②日本国憲法で人権を保障される人?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
8	小テスト返却と講評(10分) 統治機構②国民主権と選挙	試験返却と講評・講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
9	人権③平等権 本当に法の下では「平等」?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	統治機構③国会(立法権)(その1) 「国権」とは何か?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
11	人権④思想・良心の自由、信教の自由 人の心の中はどうやって保障される?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
12	統治機構④国会(立法権)(その2) 国会の役割とは?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
13	人権⑤表現の自由 「ヘイトスピーチ」でも守られる?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
14	統治機構⑤内閣(行政権) 議院内閣制と大統領制の違いとは?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
15	人権⑥人身の自由 逮捕されたら人権はないの?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
16	統治機構⑥裁判所(司法権)(その1) 裁判所の組織と裁判の公開	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
17	人権⑦経済活動の自由 財産は奪われるもの?好きな所に住む?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
18	統治機構⑦裁判所(司法権)(その2) 裁判員制度とは?国民の司法参加?	映像視聴 リアクションペーパー	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
19	人権⑧経済活動の自由 自分の選んだ仕事をする自由とは?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
20	統治機構⑧裁判所(司法権)(その3) 司法審査とは?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
21	人権⑨生存権と社会保障 生活保護制度を考える。	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
22	小テスト②(15分) 統治機構⑨地方自治「地方分権」とは?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
23	小テスト返却と講評(10分) 人権⑩学問の自由と教育を受ける権利	試験返却と講評・講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
24	統治機構⑩平和主義(その1) 憲法9条を考える。	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
25	人権⑪労働に関する権利 働き方改革とは?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
26	統治機構⑪平和主義(その2) 集団的自衛権は違憲?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
27	統治機構⑫統治機構まとめ 日本の在り方?	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
28	人権⑫人権まとめ もう一度「人権問題」を考える。	講義 ディスカッション	【予習】事前課題に取り組む 【復習】事後課題に取り組む
29	期末試験(60分) 出題趣旨の説明(30分)	試験	【予習】試験の準備
30	試験返却と講評(30分) 憲法改正について自分の意見を述べる。	試験返却・講評 ディスカッション	【復習】試験の振り返り

テキスト	池田真朗ほか編『法学六法'18』(信山社) そのほか、授業に関連するプリントを Moodle 及び当日に配布する。
参考書	駒村圭吾編『プレステップ憲法』(弘文堂) 上田健介・尾形健・片桐直人著『START UP 憲法 判例 50!』(有斐閣)
その他 特記事項	土屋担当回: 2, 4, 6, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 25, 28, 30 鈴木担当回: 1, 3, 5, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 27, 29, 30

科目名	LAW200: 法学				担当教員	土屋 志穂, 牧 耕太郎		
開講期	秋	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	法律、法学、憲法、行政法、刑法、民法、国際法							
授業の概要	本講義は法とは何か、法学はどのような学問なのかを理解する科目である。前半は法とは何か、法の役割、法の読み方・分類、法の解釈、裁判制度を知ることを通じて、法的思考を学んでいく。後半は、具体的に各種の法律を学びながら、国内・国際社会の問題を法的に考察していく。講義形式で行うが、講義中に質問をするので積極的に参加してほしい。							
達成目標	法律の知識、法的思考を身につけることで、法律の観点から社会問題を分析・思考し、解決策を提示することができるようになる。							
到達目標	「法を解釈する」技術を身につけ、条文解釈を行うことができる。 裁判という制度・現象について理解し、説明することができる。 日本の基本的な法律と日本に関わる法律を正確に理解し、説明することができる。							
評価方法	授業内中間試験(25%)、期末試験(55%)、授業時の積極参加(10%)、授業外課題(10%)							
評価基準	中間試験：法学の基礎知識が身についているか。 期末試験：各種法律の概念を理解し、設題の趣旨に合った記述がなされているか。 授業時の積極参加：質問に対して必ず解答しているか。前回の課題に取り組んだか。 授業課題：冬期休暇で第8回以降の復習ノートを参照しながら課題に答えたか。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業進行・評価方法の説明 六法の見方・読み方	講義 質疑応答	【復習】六法を引く
2	法とは何か 法の根拠とは何か?	講義 質疑応答	【予習】課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
3	法の分類 法にはどんな種類があるのか?	講義 質疑応答	【予習】六法の目次確認 【復習】復習ノート作成
4	法の解釈 「法の内容を読み取る」とは?	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
5	裁判① 裁判の仕組みを知る。	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
6	裁判② 模擬裁判に参加する。	映像視聴 ディスカッション	【予習】配布資料を読む 【復習】裁判進行のまとめ
7	裁判③ 実際の判決に触れる。	講義 質疑応答	【予習】配布資料を読む 【復習】同じ判決を再度読む
8	授業内中間試験(30分)、講評(20分) 公法①憲法の基礎	試験・試験の講評 講義	【予習】試験の勉強をする 【復習】中間試験の見直し
9	試験返却(10分) 民事法①導入 民事法の構造を知る。	試験の返却 講義・質疑応答	【予習】3回、5回の内容復習 【復習】復習ノート作成
10	公法②基本的人権とは? 憲法で保障される国民の人権とは?	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】同じ問題を再度解く

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	公法③基本的人権の限界とは？ 公共の福祉と人権	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
12	民法法②契約と不法行為 「人に何かを請求する」権利とは？	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
13	公法④憲法(統治機構)、行政法の基礎 行政組織に関する法とは？	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
14	民法法③家族法 「家族」と法の関係	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
15	公法⑤行政からの救済 国家を訴えるときの法とは？	講義 質疑応答	【予習】国家賠償判例を読む 【復習】復習ノート作成
16	民法法④権利判定手続 民事裁判を知る。	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
17	国際法①国際法とは？国際法の基本原則 国際法は「法」？国内法との違い。	講義 質疑応答	【予習】事前資料を読む 【復習】復習ノート作成
18	民法法⑤権利実現手続 「民事執行」とは何か？	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
19	刑事法①犯罪の成立と不成立 犯罪の成立要件とは？	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
20	国際法②国際法の主体 国際法は誰のための法？	講義 質疑応答	【予習】事前資料を読む 【復習】復習ノート作成
21	刑事法②犯罪の特殊な形態 過失 / 未遂 / 共犯	講義 質疑応答	【予習】事前資料を読む 【復習】復習ノート作成
22	国際法③国際社会の空間的範囲 領土・海・空・宇宙の国際法	講義 質疑応答	【予習】事前資料を読む 【復習】復習ノート作成
23	刑事法③「〇〇罪」とは？ 個別具体的な犯罪要件を理解する。	講義 質疑応答	【予習】19回の復習 【復習】冬期課題に取り組む
24	国際法④武力行使と国際紛争の解決 国際裁判とその他の紛争解決方法	講義 質疑応答	【予習】事前資料を読む 【復習】復習ノート作成
25	刑事法④刑事裁判の流れ 刑事裁判の手続を理解する。	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
26	刑事法⑤少年裁判と刑事司法への市民参加 少年裁判 / 裁判員裁判・検察審査会	講義 質疑応答	【予習】事前課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
27	公法(憲法・行政法)・国際法まとめ 日本と国際社会の法の交わり	講義 質疑応答	【予習】まとめ課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
28	民法法・刑事法まとめ 社会現象を複数の法的角度から見ると？	講義 質疑応答	【予習】まとめ課題に取り組む 【復習】復習ノート作成
29	期末試験(60分) 出題趣旨の説明(30分)	試験・講義 質疑応答	【予習】試験の準備 【復習】試験問題を見直す
30	期末試験の返却・講評と解説 法学知識の定着を確認する。	試験返却・講評 質疑応答	【復習】ノートと資料を読み返す

テキスト	池田真朗ほか編『法学六法'18』(信山社) その他、必要な資料を講義の際に配布あるいは Moodle で配布する。
参考書	山下純司・島田総一郎・宍戸常寿著『法解釈入門』(有斐閣) 市川正人・酒巻匡・山本和彦著『現代の裁判〔第7版〕』(有斐閣)
その他 特記事項	土屋担当回：2、4、6、8、10、11、13、15、17、20、22、24、27、29、30回 牧担当回：1、3、5、7、9、12、14、16、18、19、21、23、25、26、28、30回

科目名	EDU200: 教育学					担当教員	杉村 美佳	
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4220	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	発達と教育、発達心理、教育思想、教育史、教育問題、教育改革、グローバル化と教育							
授業の概要	人間や社会にとって「教育とは何か」を問い、教育という営みについて心理学的、思想的、歴史的、国際的なアプローチから探究することを通して、教育学の基礎理論を学ぶ。さらに、いじめや不登校、外国籍児童の教育など現代の学校教育を取り巻く諸問題を取り上げ、その要因や社会的背景、課題解決の方途を探る。最後に各自が関心のある教育事象を取り上げてレジュメを作成し、プレゼンテーションを行う。							
達成目標	教育という営みについて心理学的、思想的、歴史的、国際的視点から探究することを通して、教育学の基礎理論を理解し、教育事象を教育学的視点から論理的、批判的に考察することができるようになることを目的とする。							
到達目標	①教育学の諸分野や基礎理論についての確に理解し、概要を説明することができる。 ②現代の教育を取り巻く諸問題の背景や現状を理解し、課題を論述することができる。 ③教育事象に関するレジュメの作成やプレゼンテーションを通して、教育学の視点から教育事象を論理的、批判的に考察し、その結果を効果的に発表することができる。							
評価方法	授業時に課すリアクションペーパー(30%)、授業内試験(30%)、レジュメ・プレゼンテーション(40%)							
評価基準	リアクションペーパー：論題について授業内容を踏まえて論理的に考察できているか。 授業内試験：授業内容を理解し、設問に対して正確に答えられているか。 レジュメ：参考文献の内容を理解し、教育学の観点から論理的に論述できているか。 プレゼンテーション：パワーポイントなど発表を効果的にする資料を準備し、わかりやすく伝える工夫をしているかによって評価をする。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	教育学とは—教育学の諸分野—	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.38-41 の一読 配布プリントの復習
2	教育の目的とは	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.45-49 の一読 配布プリントの復習
3	人間の発達と教育(1) 幼児期	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.41-45 の一読 DVDの内容の要約・考察
4	人間の発達と教育(2) 児童期	講義・DVD視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.27-31 の一読 DVDの内容の要約・考察
5	人間の発達と教育(3) 青年期	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.6-12 の一読 配布プリントの復習
6	道徳性の発達と教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.120-125 の一読 配布プリントの復習
7	子ども観・教育観の変遷(1) コメニウス・ロック	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.77-80 の一読 配布プリントの復習
8	子ども観・教育観の変遷(2) ルソー	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.81-84 の一読 配布プリントの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	子ども観・教育観の変遷(3) デューイ	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.85-87 の一読 DVD の内容の要約・考察
10	幼児教育の思想―フレーベル・モンテッソーリ―	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.87-88 の一読 DVD の内容の要約・考察
11	明治期の教育(1)―欧米教育情報の受容と近代学校の誕生―	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.63-65 の一読 DVD の内容の要約・考察
12	明治期の教育(2)―義務教育制度の成立―	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト pp.66-68 の一読 DVD の内容の要約・考察
13	大正期の教育―大正新教育運動の展開―	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.69-70 の一読 配布プリントの復習
14	昭和期の教育―戦後の教育制度改革―	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.70-72 の一読 配布プリントの復習
15	現代日本の教育改革―学歴主義社会の改革と生涯学習の推進―	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.73-75 の一読 配布プリントの復習
16	諸外国の教育制度	講義・ディスカッション リアクションペーパー	諸外国の教育制度を調べる 配布プリントの復習
17	欧米の自由教育	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	テキスト p.87 の一読 DVD の内容の要約・考察
18	教師論	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.90-95 の一読 配布プリントの復習
19	カリキュラム論―学習指導要領の変遷―	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.52-57 の一読 配布プリントの復習
20	教育方法論―教育方法の日米比較―	講義・DVD 視聴 リアクションペーパー	配布プリントの一読 DVD の内容の要約・考察
21	グローバル化と教育(1) 外国につながる子どもと国際理解教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	テキスト pp.18-20 の一読 配布プリントの復習
22	グローバル化と教育(2) シティズンシップ教育	講義・ディスカッション リアクションペーパー	日本の市民教育を調べる 配布プリントの復習
23	小括・授業内試験	講義・質疑応答・ 授業内試験	24 回目までの授業内容の復習
24	試験の返却と解説・プレゼンテーションの準備	講義・グループワーク	プレゼンテーションの準備
25	学校教育の今日的課題(1) 生きる力の育成とアクティブ・ラーニング	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジユメの復習
26	学校教育の今日的課題(2) 学力格差	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジユメの復習
27	学校教育の今日的課題(3) いじめ	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジユメの復習
28	学校教育の今日的課題(4) 不登校・学級崩壊	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジユメの復習
29	学校教育の今日的課題(5) 特別支援教育	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジユメの復習
30	学校教育の今日的課題(6) 小学校の英語教育	プレゼンテーション・ 討議・解説	プレゼンテーションの準備 配布レジユメの復習

テキスト	内海崎貴子 編著『教職のための教育原理』(八千代出版)
参考書	田嶋一他著『やさしい教育原理』(有斐閣アルマ)

科目名	EDU200: 教育学					担当教員	栗原 麗羅	
開講期	秋	開講時限	火金2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	教育原理、教育問題、諸外国の教育、多文化教育							
授業の 概要	思想的、歴史的、社会的なアプローチから「教育・学校とは何か」という問いに取り組むとともに、教育学の基礎理論を学ぶ。さらに、国内外における学校教育や多文化教育に関わる課題を取り上げ、多文化共生社会を迎える現代の教育に関する理解を深める。また、授業毎のグループディスカッションと、各自が関心のある教育事象に関するブックレポートの作成および研究レポートの発表を行う。							
達成目標	本科目は、学生が教育の概念や教育問題についての考察および議論を行うことで、教育学に関する知識を深めるとともに、教育事象に関して参考文献を用いて論理的、批判的に分析し、その結果を文章および口頭で発表できるようになることが目的である。							
到達目標	①予習を行ったうえで授業に臨み、授業内で教員からの質問に答えることや、他の学生との意見交換をすることで、教育に関して多様な考えを持つことができる。 ②教育に関する自身の考えを論述したリアクションペーパーを作成することで、授業およびグループディスカッションでの学びを省察できる。 ③自身が関心を持つ教育事象に関して、多様な視点から比較考察を行い、ブックレポートおよび研究レポートの形で発表できる。							
評価方法	授業時の積極参加(10%)、予習プリントの内容に関する確認テスト(10%)、リアクションペーパー(10%)、ブックレポート(35%)、研究レポート(35%)							
評価基準	評価基準の詳細は初回授業時に配付する。							
準備学修 の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	教育とは何か(1) —人間の進化と学習・教育能力—	講義、グループディスカッション	テキスト pp.iii-vi、pp.1-20 を読んでくる
2	教育とは何か(2) —発達への助成的介入— 予習プリントの確認テスト	講義、グループディスカッション	pp.20-41 を読み、予習プリントを解いてくる
3	教育とは何か(3) —院内学級教師の仕事—	DVD 視聴、グループディスカッション	配布プリントを読んでくる
4	学校とは何か(1) —学校の成り立ち—	講義、グループディスカッション	pp.43-59 を読み、予習プリントを解いてくる
5	学校とは何か(2) —日本の中世・近代の学校—、予習プリントの確認テスト	講義、グループディスカッション	pp.61-79 を読み、予習プリントを解いてくる
6	学校とは何か(3) —戦後教育改革と教育爆発—	講義、グループディスカッション	pp.79-88 を読み、予習プリントを解いてくる
7	学校とは何か(4) —海外の学校制度—	講義、グループディスカッション	配布プリントを読んでくる
8	学力とは何か —国際的な学力調査の導入—	講義、グループディスカッション	pp.91-107 を読み、予習プリントを解いてくる
9	道德教育の変化、 予習プリントの確認テスト	講義、グループディスカッション	pp.107-121 を読み、予習プリントを解いてくる

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	シティズンシップ教育	講義、グループディスカッション	配布プリントを読んでもくる
11	学校教育の構想と授業改革、予習プリントの確認テスト	講義、グループディスカッション	pp.123-137を読み、予習プリントを解いてくる
12	教育評価の機能と種類	講義、グループディスカッション	pp.139-155を読み、予習プリントを解いてくる
13	授業をつくる ―様々な授業実践と教育運動―	講義、グループディスカッション	pp.157-180を読み、予習プリントを解いてくる
14	総合的な学習の時間の役割	講義、グループディスカッション	配布プリントを読んでもくる
15	教師の仕事―教師の役割と資質―	講義、グループディスカッション	pp.183-207を読んでもくる、ブックレポートの提出
16	青年期と教育	講義、グループディスカッション	pp.209-225を読み、予習プリントを解いてくる
17	社会教育と生涯学習、予習プリントの確認テスト	講義、グループディスカッション	pp.227-241を読み、予習プリントを解いてくる
18	教育への権利と「子どもの権利条約」	講義、グループディスカッション	pp.243-256、配布プリントを読んでもくる
19	子どもの権利思想の発展(1)―コメニウス・ロッカー予習プリントの確認テスト	講義、グループディスカッション	pp.259-280を読み、予習プリントを解いてくる
20	子どもの権利思想の発展(2)―ルソー、ブックレポートの返却・講評	講義、グループディスカッション	pp.259-280、配布プリントを読んでもくる
21	子どもの権利思想の発展(3)―ペスタロッチ・フレーベル―	講義、グループディスカッション	pp.259-280、配布プリントを読んでもくる
22	学校教育の課題(1)―体罰、いじめと不登校―	講義、グループディスカッション	pp.259-280、配布プリントを読んでもくる
23	学校教育の課題(2)―生活指導と教育相談―	講義、グループディスカッション	pp.259-280、配布プリントを読んでもくる
24	学校教育の課題(3)―特別支援教育―	講義、グループディスカッション	配布プリントを読んでもくる 研究レポートの事前提出
25	学校教育の課題(4)―グローバル化と教育開発―	講義、グループディスカッション	pp.259-280、配布プリントを読んでもくる
26	日本における多文化教育	講義、研究レポートの発表	配布プリントを読んでもくる 発表担当者は発表の準備
27	海外における多文化教育	講義、研究レポートの発表	配布プリントを読んでもくる 発表担当者は発表の準備
28	社会の変化と教育政策の動向(1)―学習指導要領の改正―	講義、研究レポートの発表	pp.271-280を読んでもくる、 発表担当者は発表の準備
29	社会の変化と教育政策の動向(2)―小学校における英語の教科化―	講義、研究レポートの発表	pp.271-280を読んでもくる、 発表担当者は発表の準備
30	授業のまとめと振り返り、研究レポートの返却・講評	講義、質疑応答	授業内容の復習を行う

テキスト	田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理 第3版』(有斐閣アルマ)
参考書	木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』(有斐閣) 広岡義之『新しい教育原理 第2版』(ミネルヴァ書房)

科目名	ECN200: 経済学					担当教員	白瀬 宗範	
開講期	春	開講時限	火金4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	経済学、価格理論、ミクロ経済学、マクロ経済学							
授業の概要	経済学の基礎を学びます。価格理論、ミクロ経済学、マクロ経済学といった各分野を概観し、その理解に必要な数学も学習します。新聞記事なども利用し、理論だけでなく、現実の経済問題への応用も取り入れます。数学や計算の小テストを数多く取り入れます。							
達成目標	経済事象を論理的に理解し、他者に説明することができる。新聞やニュースなどで取り上げられる経済事象を価格理論、ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論を用いて理解し、説明する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の基礎理論及びそのための基礎的数学を理解する。</li> <li>・現実の経済問題を経済学の理論で理解できる。</li> <li>・日々の経済事象に興味を持ち、経済学の理論で説明できる。</li> </ul>							
評価方法	授業内の各テストの合計70%、授業参加30%。							
評価基準	<p>総合テスト及び小テスト：設問に対し経済学の理論を使って説明できているか。</p> <p>授業参加：単なる出席だけではなく、適宜提出するリアクションペーパーの内容も授業へ参加態度として評価の対象とする。</p>							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、経済学の学び方、参考書紹介	講義、質疑応答	次回範囲の予習
2	経済学のための計算・数学①	講義、演習	練習問題あり
3	経済学が対象とする分野	講義、質疑応答	次回範囲の予習
4	ミクロ経済学/価格理論①需要と価格	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習(第1章)
5	ミクロ経済学/価格理論②供給と価格	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第2章)
6	ミクロ経済学/価格理論③各曲線のシフト	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(2,3章)
7	ミクロ経済学/価格理論④価格の決定	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(2,3章)
8	ミクロ経済学/価格理論⑤応用	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(2,3章)
9	これまでの復習と小テスト	講義、テスト演習	小テストの回答をテキストで確認
10	経済学のための計算・数学②/①の小テスト	講義、テスト演習	小テストの確認と練習問題
11	ミクロ経済学/弾力性①弾力性とは	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第3章)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	ミクロ経済学/弾力性②需給曲線と弾力性	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第3章)
13	ミクロ経済学/弾力性③弾力性の応用	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第3章)
14	ミクロ経済学/市場の失敗と政府の役割①市場経済、貨幣	講義、質疑応答	授業内容をテキストで復習、予習(第5章)
15	ミクロ経済学/市場の失敗と政府の役割②資源配分	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第5章)
16	ミクロ経済学/市場の失敗と政府の役割③所得配分	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第5章)
17	これまでの復習と小テスト	講義、テスト演習	小テストの回答をテキストで確認
18	経済学のための計算・数学③/②の小テスト	講義、テスト演習	小テストの確認と練習問題
19	マクロ経済学①GDP 入門	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第6章)
20	マクロ経済学②GDP の構成	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第6章)
21	マクロ経済学③財政政策	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第7章)
22	マクロ経済学④金融政策	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第7章)
23	マクロ経済学⑤為替レートの研究	講義、質疑応答	授業内容をテキストで予習・復習、予習(第7章)
24	これまでの復習と小テスト	講義、テスト演習	小テストの回答をテキストで確認
25	経済学のための計算・数学④/③の小テスト	講義、テスト演習	小テストの確認と練習問題
26	経済学の諸問題/途上国支援・DVD	DVD 視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
27	経済学の諸問題/日本経済①・DVD	DVD 視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
28	経済学の諸問題/日本経済②・DVD	DVD 視聴と質疑応答	テーマを各自整理、関連新聞記事など調べる
29	総合テストとこれまでの復習	講義、テスト演習	理解度の確認
30	試験の返却と解説、これまで学習した内容に関する質疑応答	講義・ディスカッション	ディスカッションの準備

テキスト	岩田規久男『経済学への招待』(新世社)
参考書	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)

科目名	BUS200: 経営学					担当教員	白瀬 宗範	
開講期	秋	開講時限	火金3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	経営学、戦略論、組織論、マーケティング、簿記・会計学、財務分析							
授業の概要	経営学の基礎を学びます。企業理論の基礎から始まり、広範な経営学の理論を体系的に概観します。理論だけでなくケーススタディも重視し、映像や新聞記事などの各種コンテンツも活用します。経済学同様、数字やデータの取り扱いも重要であるため、経営学のための数学、統計学の基礎も学習する予定です。							
達成目標	経営学の基礎理論を学習することで、企業活動を理論的に理解する。企業に関する諸事象を戦略論、組織論、マーケティング、会計学・財務分析の基礎理論を用いて理解し、他者に説明できるようにする。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学各分野の基礎理論及びそのための数学的基礎を理解する。</li> <li>・企業活動をケーススタディとして、理解を深める。</li> <li>・社会における企業の役割に興味を持ち、自分なりの企業観を育てる。</li> </ul>							
評価方法	期末レポート30%、授業内テスト40%、授業参加30%。							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末レポート：設題について学習した内容を踏まえて論理的に論述できているか。また、参考文献リストの添付など、適切な書式で提出しているか。</li> <li>・授業内テスト：設問に対し経営学の理論を使って説明できているか。</li> <li>・授業参加：単なる出席だけではなく、適宜提出するリアクションペーパーの内容も授業へ参加態度として評価の対象とする。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、経営学の学び方、参考書紹介	講義、問題演習	次回範囲の予習
2	経営学の基礎①ビジネス記事の読み方	講義、質疑応答	プリントによる理解の確認
3	経営学の基礎②株式会社とは	講義、質疑応答	プリントによる理解の確認
4	経営学の基礎③日本的経営の実例	講義、質疑応答	プリントによる理解の確認
5	経営学のための数学①百分率と経営学	講義、問題演習	練習問題あり
6	経営戦略論①ビジョンとは	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
7	経営戦略論②戦略とストーリー	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
8	経営戦略論③戦略の実例	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
9	経営学のための数学②速度算と経営学	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	マーケティング①ターゲティング	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
11	マーケティング②マーケティング手法	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
12	マーケティング③マーケティングの実例	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
13	これまでの復習と中間テスト	講義、小テスト	模範解答と照合、解説
14	経営組織論①モチベーション	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
15	経営組織論②リーダーシップ	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
16	経営組織論③チームワーク	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
17	経営学のための数学③損益算と経営学	講義、問題演習、小テスト	練習問題あり
18	会計学&財務分析①財務諸表	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
19	会計学&財務分析②財務分析	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
20	会計学&財務分析③練習問題による演習	講義、質疑応答	プリントやノートで授業内容を予習・復習
21	経営学のための数学、小テストとこれまでの復習	講義、問題演習、小テスト	模範解答と照合、解説
22	これまでの復習と中間テスト	講義、問題演習、小テスト	模範解答と照合、解説
23	ケーススタディ①コンプライアンス	DVD 視聴、講義	Web による講義内容の確認
24	ケーススタディ②CSR	DVD 視聴、講義	Web による講義内容の確認
25	ケーススタディ③ディズニーランド	DVD 視聴、講義	Web による講義内容の確認
26	ケーススタディ④日本企業の歴史	DVD 視聴、講義	Web による講義内容の確認
27	レポート・プレゼンテーションと演習①	プレゼンテーションと質疑応答	プレゼンテーションの内容を Web で確認
28	レポート・プレゼンテーションと演習②	プレゼンテーションと質疑応答	プレゼンテーションの内容を Web で確認
29	レポート・プレゼンテーションと演習③	プレゼンテーションと質疑応答	プレゼンテーションの内容を Web で確認
30	総評とレポート提出	講義、質疑応答	各自の理解確認

テキスト	特に指定しません。適宜プリント(経営学各分野の基礎、関連記事、ケーススタディ等に関する資料)を配布します。
参考書	榊原清則『経営学入門(上)(下)』(日経文庫)

科目名	SWF200: 社会福祉入門					担当教員	栃本 一三郎・寺田 誠	
開講期	秋	開講時限	火金3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	社会福祉の広がりや深さ、社会政策、主体としての社会福祉、客体としての社会福祉							
授業の概要	社会福祉についての基礎的理解のために入門的かつ刺激的な授業を行います。今までの福祉観が一変するでしょう。テキストはもちろんですが、企業や地域の福祉の最前線の議論、また正確で確実な知識(の取得法)、物事を深く理解するための訓練の場とするとともに、大手企業や大学進学、留学を目指す学生にとっても必須の知識としての社会福祉、女性にとっても知っておくべき社会保障や社会福祉の知識を教授します。							
達成目標	従来の社会福祉教育で行われてきた狭義の社会福祉ではなく、①社会保障も視野においた広義の社会福祉について現状、制度、法律について基礎的知識を得るとともに、②自分の言葉でも説明できるようになる。③さらに新聞で取り上げられる内外の社会福祉や社会保障、社会問題の記事についてある程度専門的視点から読み解くことができるようになる。							
到達目標	授業および教科書に書かれている事柄を自分で調べ、理解し、さらに他者に説明できるようになる。また自分で考え、世間の理解とは異なる深い読み方ができるようになる。学問としての社会福祉という視点を得られるようになる。							
評価方法	①毎週の新聞の切り抜きとコメント(20%)、②授業時の積極参加(15%)、③授業毎のリアクションペーパー(15%)、④期末課題(2,500字以上レポート)(50%)							
評価基準	評価方法の割合に応じた合計点によって成績評価を行う。①国内外の社会福祉や社会保障、社会問題の新聞記事を切り抜いて提出かつコメント(200字以上)を付ける。提出回数とコメントの妥当性によって4段階評価。②漫然と授業を受けるのではなく予習・復習がなされているか、質疑応答やディスカッションを行いつつ評価する。③自分なりにその日(回)の学習内容やキーワードは何だったかを確認しながら記述。コメントの内容によって理解度を見て評価。疑問点は次の授業で解説する。④配付資料や紹介した文献をもとに自分が関心を寄せるテーマについて、講義やディスカッションで得た視点やアプローチを使いながら自分の考えをきちんと論じることができるかを判断し評価。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	イントロダクションー講義の進め方、テキストの読み方	講義、ディスカッション リアクションペーパー	テキスト序章を予習
2	社会福祉とは何か①ー社会福祉と社会保障、社会福祉の基礎概念	講義、新聞切り抜き提出 (以下「新聞」)	テキスト第1章第1節を予習、 配付資料の復習
3	社会福祉とは何か②ー日本における社会福祉の内容と展開、歴史的連続性	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第1章第2節を予習、 配付資料の復習
4	社会福祉をどう捉えるか①ー学問として	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第3章までの熟読
5	社会福祉とは何か③ーソーシャルポリシー、ニーズの種類、社会福祉の資源	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第1章第3-4節を予習、 配付資料の復習
6	社会福祉とは何か④ー現金給付と現物給付、普遍主義と選別主義、シチズンシップ	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第1章第4節を予習、 配付資料の復習
7	社会福祉の動向①ー少子高齢社会、人口減少社会、これからの人口推計	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第2章第1節を予習、 配付資料の復習
8	社会福祉の動向②ー在宅福祉、地域福祉、地域包括ケアシステム、NPO	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第2章第2-3節を予習、 配付資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	社会福祉をどう捉えるか②―実践者として	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第3章までの熟読
10	社会福祉をどう捉えるか③―広がり	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第3章までの熟読
11	社会福祉の動向③―社会福祉8法改正、社会福祉の基礎構造改革	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第2章第4―5節を予習、配付資料の復習
12	社会福祉の動向④―社会福祉の基礎構造改革、社会福祉法の改正	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第2章第4―5節を予習、配付資料の復習
13	社会福祉の法と行財政①―社会福祉の法制度、社会保障、社会福祉6法	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第1節を予習、配付資料の復習
14	社会福祉の法と行財政②―昭和25年勸告、社会保障と社会福祉、社会保険	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第2節を予習、配付資料の復習
15	社会福祉をどう捉えるか④―深さ	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第3章までの熟読
16	社会福祉をどう捉えるか⑤	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第3章までの熟読
17	社会福祉の法と行財政③―社会保障給付費、国民負担率、税と社会保障	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第3章第3―4節を予習、配付資料の復習
18	社会福祉の供給体制①―政府部門、民間非営利部門、民間営利部門、インフォーマル部門	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第4章第1―2節を予習、配付資料の復習
19	社会福祉の供給体制②―供給体制の変遷と今後、公私関係、政府間関係	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第4章第3―4節を予習、配付資料の復習
20	社会福祉専門職①―社会福祉の人材の概況、人材確保、感情労働	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第5章第1―2節を予習、配付資料の復習
21	社会福祉専門職②―社会福祉の国家資格、専門職と倫理、継続教育	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第5章第3―4節を予習、配付資料の復習
22	社会政策の重要性①―社会のデザイン	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第7章までの熟読
23	社会福祉援助技術―社会福祉援助技術を学ぶ視点、基本的要素	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第6章を予習、配付資料の復習
24	社会政策の重要性②―国のデザイン	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第7章までの熟読
25	利用者の視点からみたサービスの利用支援①―事業者の情報、第三者評価	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト第7章を予習、配付資料の復習
26	社会福祉の重要性③―社会福祉のデザイン	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第7章までの熟読
27	利用者の視点から見たサービスの利用支援②―苦情解決、権利擁護	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト第7章を予習、配付資料の復習
28	社会福祉の重要性④―現場のデザイン	講義 リアクションペーパー、新聞	テキスト序章、第1章から第7章までの熟読
29	まとめ①―あらためてテキスト序章を読む	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章を今一度復習
30	まとめ②―新しい視点とは何か 期末課題提出	講義、ディスカッション リアクションペーパー、新聞	テキスト序章を今一度復習

テキスト	栃本一三郎編(2006)『新しい視点で学ぶ社会福祉―保育士を志す人のために』(光生館)
参考書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門改訂版』(有斐閣アルマ)
その他 特記事項	* 栃本：1, 4, 9, 10, 15, 16, 22, 24, 26, 28, 29, 30回(予定) 寺田：2, 3, 5, 6, 7, 8, 11, 12, 13, 14, 17, 18, 19, 20, 21, 23, 25, 27回(予定)

科目名	JRN201: マスメディア論					担当教員	李 宰豪	
開講期	春	開講時限	月木5限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	ジャーナリズム、メディア理論、メディア史、メディアの現状、現代社会とメディア							
授業の 概要	本講義はメディアの役割、効果、影響力とその特徴などを考察する。具体的には新聞、放送、インターネットなどメディアの理論と歴史を理解した上で (Part I)、各媒体の現状やその特徴などを学習する (Part II)。なお、それまでの講義内容を踏まえた上で、様々な事例により社会とメディアの関係とその展望を論じる (Part III)。							
達成目標	本科目は、受講生のメディアへの理解を深めるため、メディアの歴史・理論・現状と社会との関係性を理解し、日常で接する様々なニュースに対して批判的に解釈できる、またそれを積極的に発信できる力を身につけることを目的とする。							
到達目標	講義中に自分の考えをはっきり示すことができ (評価①)、講義後に内容を踏まえて講義の要約もしくはテーマに関する意見を論理的に述べることができ (評価②)、講義内容を理解した上で議論することができ (評価③)、講義で学んだ内容をもとに自分の論拠を論理的に示すことができる (評価④) ようになる。							
評価方法	①授業時の積極参加 1点×25回=25%、②リアクションペーパー 1点×25回=25%、 (以上の評価項目は、初回・ワークショップ3回・最終回を除く) ③ワークショップ(グループワーク) 5点×3回=15% ④最終レポート 35%							
評価基準	評価基準の詳細については初回講義で配付する。							
準備学修 の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス : コミュニケーションとメディア	講義、質疑応答	講義の復習
2	Part. 1 概論 コミュニケーションの発達と進化	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
3	Part. 1 概論 メディア理論 I : 初期一弾丸理論とは	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
4	Part. 1 概論 メディア理論 II : 中期一メディアの影響力の限定化	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
5	Part. 1 概論 メディア理論 III : 後期一メディア影響力の再評価	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
6	Part. 1 概論 メディアの歴史 I : 新聞	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
7	Part. 1 概論 メディアの歴史 II : 放送	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
8	Part. 1 概論 メディアの歴史 III : インターネット	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習 ワークショップ準備
9	Part. 1 概論 メディアの歴史 IV : 日本のメディア	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習 ワークショップ準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	ワークショップ①	講義、発表 ディスカッション	講義の復習
11	Part. 2 メディアの現状 : 新聞	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
12	Part. 2 メディアの現状 : 出版	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
13	Part. 2 メディアの現状 : 広告	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
14	Part. 2 メディアの現状 : 放送	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
15	Part. 2 メディアの現状 : インターネット	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
16	Part. 2 メディアの現状 : 産業としてのメディア I	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習 ワークショップ準備
17	Part. 2 メディアの現状 : 産業としてのメディア II	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習 ワークショップ準備
18	ワークショップ②	講義、発表 ディスカッション	講義の復習
19	Part. 3 現代社会とメディア : メディアリテラシー	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
20	Part. 3 現代社会とメディア : グローバリゼーションとメディア	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
21	Part. 3 現代社会とメディア : 戦争とメディア	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
22	Part. 3 現代社会とメディア : ジェンダーとメディア	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
23	Part. 3 現代社会とメディア : 大衆文化とメディア	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
24	Part. 3 現代社会とメディア : 世論とメディア	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
25	Part. 3 現代社会とメディア : 権力とメディア	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習 ワークショップ準備
26	Part. 3 現代社会とメディア : 政治とメディア	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習 ワークショップ準備
27	ワークショップ③	講義、発表 ディスカッション	講義の復習
28	理論・研究紹介 1 オーディエンスとメディア	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
29	理論・研究紹介 2 メディアの規範理論	講義、質疑応答 リアクションペーパー	講義の復習
30	総括	講義、質疑応答	講義の復習

テキスト	特定のテキストは設けず、本シラバスに記載の参考書と講義中に紹介する追加の参考書を基に作成した電子資料を掲載する。受講生は各自ダウンロード・印刷などで持参すること。
参考書	①渡辺武達、田口哲也、吉澤健吉編著『メディア学の現在 新訂第2版』(世界思想社) ②春原昭彦、武市英雄編著『ゼミナール 日本のマス・メディア 第3版』(日本評論社)
その他 特記事項	受講者は媒体を問わず、毎週ある程度のニュースを閲覧した上での出席が望ましい。 講義の際には非定期的にグループディスカッションを設けるので、積極的に参加すること。

科目名	JRN201: マスメディア論				担当教員	鈴木 規史		
開講期	秋	開講時限	月木5限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	<p>シラバスは本学公式 web サイトの シラバスページにて公開します。</p> <p>詳細については、 Loyola「上智大学短期大学部掲示板」にて お知らせします。</p>							
授業の 概要								
達成目標								
到達目標								
評価方法								
評価基準								
準備学修 の時間								

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

テキスト	
参考書	
履修条件、 前提科目	
その他 特記事項	

科目名	COM101: 基礎コンピューター演習					担当教員	森本 貴之	
開講期	春	開講時限	火2限 火3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-②	
キーワード	コンピューター, 情報リテラシー, 情報処理, Word, Excel, PowerPoint							
授業の概要	コンピューターを利用して、情報を収集・処理し、文書にまとめ、プレゼンテーションを行うための基礎的な技法について実習を通じて学ぶ。また、ネット上におけるモラルやセキュリティをはじめとする、知っておくべき情報リテラシーについて学ぶ。							
達成目標	大学生そして社会人として要求される情報リテラシーおよびコンピューターを利用した情報処理の基本を身につけることを目的とする。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報分野における基本的かつ汎用的なリテラシーを習得する。</li> <li>・ネット上におけるセキュリティの意識付けやマナーを身につけ、実践する。</li> <li>・文書作成、データ処理、プレゼンテーションのためのソフトウェアの基本操作を習得する。</li> </ul>							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ごとの演習課題 55%</li> <li>・単元末の総合課題 45% (内訳: Wordを使用したレポート作成 15%、Excelを使用したデータ処理 15%、PowerPointを使用したプレゼンテーションの実演 15%)</li> </ul>							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ごとの演習課題: その日の授業内容がどれだけ理解できているか。</li> <li>・レポート作成: 必要な情報を収集し、適切な書式や表現でまとめられるかどうか。</li> <li>・データ処理: 様々なデータに対して意図した処理が実現できるかどうか。</li> <li>・プレゼンテーションの実演: 集めた情報を基に発表ための資料を作成し、他者にどれだけ伝えることができるかどうか。</li> </ul>							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	PC (Windows) の基本操作	解説、PC 実習	実習で使用する PC アカウントの準備
2	Word による文書作成 (1) Word の基本操作、基本的な文書の作成	解説、PC 実習	第 2 回授業の演習課題
3	Word による文書作成 (2) 文書の編集、書式設定等	解説、PC 実習	第 3 回授業の演習課題
4	Word による文書作成 (3) 表の作成・編集、図の挿入等、総合演習	解説、PC 実習	単元末の総合課題
5	Excel による表計算 (1) Excel の基本操作、表の作成・編集	解説、PC 実習	第 5 回授業の演習課題
6	Excel による表計算 (2) 関数の利用等	解説、PC 実習	第 6 回授業の演習課題
7	Excel による表計算 (3) データ処理と統計処理	解説、PC 実習	第 7 回授業の演習課題
8	Excel による表計算 (4) グラフの作成	解説、PC 実習	第 8 回授業の演習課題
9	Excel による表計算 (5) 条件付き書式等、総合演習	解説、PC 実習	単元末の総合課題

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成(1) 基本操作	解説、PC 実習	第 10 回授業の演習課題
11	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成(2) アニメーション設定等	解説、PC 実習	第 11 回授業の演習課題
12	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成(3) テーマ、背景等	解説、PC 実習	単元末の総合課題(資料作成、発表練習)
13	PowerPoint によるプレゼンテーションの実演(1)	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
14	PowerPoint によるプレゼンテーションの実演(2)	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
15	PowerPoint によるプレゼンテーションの実演(3)	発表、相互評価	プレゼンテーション実演のための練習
テキスト	なし。担当教員が作成した資料(電子ファイル)を Moodle で配付する。		

科目名	COM101: 基礎コンピューター演習				担当教員	津垣 正男		
開講期	秋	開講時限	火3限 金3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-②	
キーワード	情報処理, 情報リテラシー, Office, Word, Excel, PowerPoint, Html							
授業の概要	大学生として必要最低限のコンピュータスキルを身につけるための演習であり、PCルームで実際にパソコンを動かしながらPCの基本的な操作と情報リテラシーを学ぶ。具体的にはパソコンの基本(主にタイピング)、Word、Excel、PowerPointの基本的な操作、Htmlの学習を通じてインターネットの仕組みを学ぶ。							
達成目標	① タッチタイピングを身につける。 ② Word、Excel、PowerPointの基本的な操作を身につける。 ③ Webページ作成の基礎を身につける。							
到達目標	① 短時間に正確な入力作業を行うことができる。 ② Word、Excel、PowerPointの基本的な機能を用いた資料(レポート、資料の整理、発表資料)の作成を行うことができる。 ③ シンプルなWebページを作成することができる。							
評価方法	タイピング課題(10%)：P検の無料タイピング練習のインターネット版(ソーシャル投稿非対応)の英語入力を用いた測定を行う。評価における点数は設けず、ある基準を超えることを必須とする。測定は何度も行う。 webサイト： <a href="http://www.pken.com/tool/typing.html">http://www.pken.com/tool/typing.html</a>  演習課題(50%)：毎回の授業においてその回の理解度をはかるための演習課題を課す。また、PowerPointを用いたプレゼンテーションも行ってもらおう。  レポート課題(40%)：授業をWord、Excel、PowerPoint、Htmlの単元に分け、各単元の最後にレポートを課す。							
評価基準	タイピング課題：3分間で正打率95%以上、文字数390以上を必須とする。  演習課題：指示通りに提出ファイルが作成されているかどうかをみる。  PowerPointの実演においては、発表準備が十分にできているかどうかをみる。  レポート課題：指示通りに作成されているかどうかをみる。指示通りに作成されていない場合は再提出を求める。再提出の回数は評価に影響させない。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	PC(Windows)の基本操作	PC実習、解説	アカウントの準備
2	キーボード操作とタイピング： タイピング演習(1)	PC実習、解説	前回内容の復習
3	テキストエディタによる文章作成： 基本的な操作方法を学ぶ	PC実習、解説	前回内容の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
4	Wordによる文章作成： 基本的な操作方法を学ぶ	PC実習、解説	前回内容の復習
5	Wordによる文章作成： 総合演習、タイピング演習(2)	PC実習、解説	前回内容の復習
6	Excelによる表計算： 関数の扱い、相対参照、絶対参照 など	PC実習、解説	Wordのレポート提出
7	Excelによる表計算： グラフの作成・複数のシートの操作など	PC実習、解説	前回内容の復習
8	Excelによる表計算： データベースの操作など	PC実習、解説	前回内容の復習
9	Excelによる表計算：ピボットテーブルの操 作など、タイピング演習(3)	PC実習、解説	前回内容の復習
10	PowerPointによる資料の作成： 基本的な操作など	PC実習、解説	Excelのレポート提出
11	PowerPointによる資料の作成： 総合演習、タイピング演習(4)	PC実習、解説	前回内容の復習
12	PowerPointによる資料の作成： プレゼンテーションの実演	PC実習、解説	発表の準備 PowerPointのレポート提出
13	HTMLによるWebページの作成： HTML文章の基本構造を学ぶ	PC実習、解説	前回内容の復習
14	HTMLによるWebページの作成： 画像の表示、リンク関係 など	PC実習、解説	前回内容の復習
15	HTMLによるWebページの作成： 総合演習、タイピング演習(5)	PC実習、解説	前回内容の復習 Htmlのレポート提出
テキスト	『学生に役立つ Word & Excel & PowerPoint』(FOM出版)		

科目名	MTH200: 数学				担当教員	津垣 正男		
開講期	秋	開講時限	火金2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	数学、統計学、適性検査、SPI、非言語能力、数的処理							
授業の概要	統計学とは、大きなデータから一部を抜き取り、その抜き取ったデータの性質を調べることで元の大きなデータの性質を推測する方法を体系化したものである。 本授業では大学における統計学の入門コースで学ぶ内容(授業計画参照)をできるかぎりやさしく解説する。また、適性検査・SPIなどにおいて出題される非言語能力(数学)の問題についての解説も行う。共に演習を多く行う。							
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学とは何か、統計学を用いると何ができるようになるのかを知る。</li> <li>・就職試験で必要とされる数学の知識が何であるかを知る。</li> </ul>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集したデータの平均や分散、標準偏差などを計算することでデータの性質を把握することができる。(記述統計)</li> <li>・大きなデータから一部を抜き取り、その抜き取ったデータに対し推定・検定の計算をすることで元の大きなデータの性質を把握することができる。(推測統計)</li> <li>・就職試験における数学の問題を短時間で解くことができる。</li> </ul>							
評価方法	<p>演習：60%</p> <p>適性試験・SPI：毎回の授業で実際の適性試験・SPIと同様の形式の提出課題を課す。 統計学：毎回の授業で各回のテーマに関する提出課題を課す。 適性試験・SPI、統計学の提出課題の評価は共に「考え方が理解できているかどうか」を重視するので、途中計算と説明の確認を行う。</p> <p>試験：40%</p> <p>適性試験・SPI：実際の適性試験・SPIと同様の問題を用いた試験を行う。ただし、考え方の確認も行うので、途中計算と説明の確認も行う。 統計学：授業内容の理解の確認をはかる試験を行う。 試験は、適性試験・SPIと統計学のそれぞれに対して最低2回行う(合計4回以上)。</p>							
評価基準	試験及び演習課題の得点で評価を行う。詳細は初回授業で説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	統計学について 適性試験・SPIについて	講義、演習	ノートの準備
2	統計学： 平均と分散	講義、演習	前回内容の復習
3	適性試験・SPI： 推論	講義、演習	前回内容の復習
4	統計学： エクセルを用いた平均と分散の復習	講義、演習	前回内容の復習
5	適性試験・SPI： 図形の読み取り・集合	講義、演習	前回内容の復習
6	統計学： 信頼区間(母分散が既知の場合)	講義、演習	前回内容の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	適性試験・SPI： 順列・組み合わせ	講義、演習	前回内容の復習
8	統計学： 信頼区間(母分散が未知の場合)	講義、演習	前回内容の復習
9	適性試験・SPI： ここまでの演習	講義、演習	前回内容の復習
10	統計学： ここまでの確認・試験	講義、演習	ここまでの内容の復習
11	適性試験・SPI： ここまでの確認・試験	講義、演習	ここまでの内容の復習
12	統計学： 試験の解説・カイ2乗検定	講義、演習	試験の復習
13	適性試験・SPI： 試験の解説・確率	講義、演習	試験の復習
14	統計学： カイ2乗検定の演習	講義、演習	前回内容の復習
15	適性試験・SPI： 料金の割引・損益算・分割払い・仕事算	講義、演習	前回内容の復習
16	統計学： 母平均の検定	講義、演習	前回内容の復習
17	適性試験・SPI： 速さ・距離・時間	講義、演習	前回内容の復習
18	統計学： 母平均の検定の演習	講義、演習	前回内容の復習
19	適性試験・SPI： 割合・比・代金の清算	講義、演習	前回内容の復習
20	統計学： 対応のない平均の差の検定	講義、演習	前回内容の復習
21	適性試験・SPI： 資料の読み取り・長文読み取り計算	講義、演習	前回内容の復習
22	統計学： 対応のある平均の差の検定	講義、演習	前回内容の復習
23	適性試験・SPI： 整数の推測・グラフの領域	講義、演習	前回内容の復習
24	統計学： 平均の差の検定の演習	講義、演習	前回内容の復習
25	適性試験・SPI： 物の流れと比率・装置と回路	講義、演習	前回内容の復習
26	統計学： ここまでの確認・試験	講義、演習	ここまでの内容の復習
27	適性試験・SPI： ここまでの演習	講義、演習	前回内容の復習
28	統計学： 試験の解説・試験と同範囲の問題演習	講義、演習	試験の復習
29	適性試験・SPI： ここまでの確認・試験	講義、演習	ここまでの内容の復習
30	適性試験・SPI： 試験の解説・試験と同範囲の問題演習	講義、演習	試験の復習

テキスト	向後千春、富永敦子 著『統計学がわかる』(技術評論社)
------	-----------------------------

科目名	PSY200: 心理学					担当教員	森崎 ひろみ	
開講期	春	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び 学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-①	
キーワード	心理学の歴史、心理学研究法、認知心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学、社会心理学							
授業の 概要	心理学の主要な領域を概観しながら、人間の心について、心理学的な視点から理解を深めます。基本的に講義形式ですが、事前の課題学習をもとに発表する機会を設けます。なるべく多くの発言を期待しています。また、授業内で関連ある話題や参考図書を紹介します。							
達成目標	心理学の基本的な知識を習得すること、心理学的思考法を身につけ、テーマに沿って論理的に考えを展開できるようになることを目標とします。							
到達目標	心理学を通じて、人のこころや行動について理解を深める。さらに、主な心理学領域の知見から、日頃の人間理解や社会生活に応用して思考できるようになることを目標とします。							
評価方法	毎回の授業態度とリアクションペーパー50% 授業内試験5回50%							
評価基準	授業態度及びリアクションペーパーによって、授業で学習したポイントを理解し適切にまとめ、質問・疑問を通じて積極的に授業に参加し、貢献したかどうか、試験によって、学習内容を理解し、応用の設問にこたえることができるかどうかを評価する。							
準備学修 の時間	本科目の一回(90分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	オリエンテーション: 授業の進め方 心理学概論	講義・質疑応答・リアクションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
2	心理学の方法 研究法	講義・質疑応答・リアクションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
3	心理学の歴史(1) 起源	講義・質疑応答・リアクションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
4	心理学の歴史(2) 系譜	講義・質疑応答・リアクションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
5	心理学の歴史(3) 発展	講義・質疑応答・リアクションペーパー	授業の復習及び試験準備
6	第一回試験 解答と解説	授業内試験・リアクションペーパー	試験の復習と次回の準備学習
7	認知心理学(1) 認知とは	講義・質疑応答・リアクションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
8	認知心理学(2) 視知覚	講義・質疑応答・リアクションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
9	認知心理学(3) 注意	講義・質疑応答・リアクションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
10	認知心理学(4) 表象	講義・質疑応答・リアクションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
11	認知心理学(5) 記憶	講義・質疑応答・リアクションペーパー	授業の復習及び試験準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
12	第二回試験 解答と解説	授業内試験・リアクシ ョンペーパー	試験の復習と次回の準備学習
13	パーソナリティ心理学(1) パーソナリティとは	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
14	パーソナリティ心理学(2) 類型論と特性論	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
15	パーソナリティ心理学(3) パーソナリティの測定	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
16	パーソナリティ心理学(4) パーソナリティに関連する事柄	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
17	第三回試験 解答と解説	授業内試験・リアクシ ョンペーパー	試験の復習と次回の準備学習
18	臨床心理学(1) 臨床心理学とは	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
19	臨床心理学(2) 心理アセスメント	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
20	臨床心理学(3) 心理療法の理論と技法	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
21	臨床心理学(4) 心理療法の理論と技法	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
22	臨床心理学(5) 臨床心理学の実際	講義・質疑応答・リア クションペーパー	授業の復習及び試験準備
23	第四回試験 解答と解説	授業内試験・リアクシ ョンペーパー	試験の復習と次回の準備学習
24	社会心理学(1) 社会心理学とは	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
25	社会心理学(2) 対人認知・他者の理解	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
26	社会心理学(3) 対人魅力・態度・コミュニケーション	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
27	社会心理学(4) 援助行動・攻撃行動	講義・質疑応答・リア クションペーパー	次回の準備学習と授業の復習
28	社会心理学(5) 集団の圧力	講義・質疑応答・リア クションペーパー	授業の復習及び試験準備
29	第五回試験 解答と解説	授業内試験・リアクシ ョンペーパー	試験の復習と次回の準備学習
30	全体のまとめと、質疑と補足 秋学期発達心理学の紹介	講義・質疑応答・リア クションペーパー	講義のまとめと振り返り

テキスト	指定しない。授業に関するプリントを配布する。
参考書	サトウタツヤら著『心理学入門』(有斐閣アルマ)、道又爾ら著『認知心理学』(有斐閣)、 岩壁茂ら著『臨床心理学入門』(有斐閣アルマ)
その他 特記事項	単元によっては、発表を指名することがある。 秋学期に発達心理学を履修する学生は、心理学を履修しておくとい。

科目名	PED100: 体育理論 (ウエルネスと身体)				担当教員	木戸 直美		
開講期	春/秋	開講時限	火3限 火4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-③	
キーワード	健康、ライフスタイル、スポーツ、身体知、身体意識、コミュニケーション							
授業の概要	ウエルネス (wellness) とは、世界保健機関 (WHO) が国際的に提示している「健康」の定義をより広範囲な視点から捉えた、現代における包括的な健康観である。この授業では、「健康とは何か?」及び「身体とは何か?」について深く言及し、豊かなライフスタイルを構築する上での知識や主体的行動力を身に付けることを学ぶ。							
達成目標	「健康」、「身体」についての認識をより深め、豊かなライフスタイルを構築するための自身の健康観を持つことができる。実際の日常生活において自身の健康観に基づき実行することができる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観の歴史的変遷、概念について理解する。</li> <li>現在の自分自身の健康状態についてウエルネスの観点から、正しく把握する。</li> <li>自分自身の健康観について論理的に展開し、表現することができる。それらを日常生活に導入することができる。</li> <li>オリンピックムーブメント・オリンピックレガシーを意識し、自身とスポーツとの関係について考えることができる。</li> </ul>							
評価方法	授業時の積極参加 25%、リアクションシート 25%、中間レポート 20%、期末レポートテスト 30%							
評価基準	授業時の積極参加：授業時の態度、発言、ディスカッションでの積極性 リアクションシート：授業の理解度及び、自らの学びの省察の記述 中間レポート・期末レポート：提示した書式 (ex.1,000字等) による記述、総合的な論文構成							
準備学修の時間	本科目の一回 (90分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ガイダンス、ウエルネスの領域	講義・ディスカッション・リアクションシート	予習：シラバス確認 復習：配布資料確認
2	健康の概念	講義・ディスカッション・学生発表・リアクションシート	予習：ディスカッション資料 (新聞記事) 準備 復習：配布資料確認
3	健康と体力① (生活活動調査)	講義・ディスカッション・リアクションシート	予習：生活活動調査の準備 復習：配布資料確認
4	健康と体力② (新体力テスト)	参加型講義・ペアワーク・リアクションシート	予習：新体力テスト内容 復習：配布資料確認
5	健康の三要素<栄養、運動、休養>① (栄養と食事調査)	講義・ディスカッション・リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
6	健康の三要素<栄養、運動、休養>②	講義・ディスカッション・リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
7	わたしたちの健康観① (数値的指標による健康状態、及び自身の観点からみた健康状態)	講義・ディスカッション・リアクションシート	予習：中間レポート提出 復習：配布資料確認

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	中間レポート総評 遊び・スポーツ・文化① (ホイジンガ・カイヨワの遊び)	講義・ディスカッション・ リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
9	遊び・スポーツ・文化② (現代におけるスポーツの役割)	講義・ディスカッション・ リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
10	コミュニケーションと身体① (身体知・自然との対話)	参加型講義・ペアワー ク・グループワーク・ リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
11	コミュニケーションと身体② (身体知・他者との対話)	参加型講義・ペアワー ク・グループワーク・ リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
12	スポーツ科学と身体意識	講義・ディスカッション・ リアクションシート	予習：身体意識チェックシー トの記入 復習：配布資料確認
13	自己調節作用	講義・ディスカッション・ リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認
14	わたしたちの健康観② (自身の観点からみた今後の健康状態)	講義・ディスカッション・ リアクションシート	予習：期末レポート提出 復習：配布資料確認
15	総括 (期末レポート総評/スポーツ情報とスポー ツイベント)	参加型講義・ディスカ ッション・ペアワー ク・グループワーク・ リアクションシート	予習：配布資料確認 復習：配布資料確認

テキスト	ニュース記事、生活活動調査等の資料を授業時に配布
参考書	大学生の健康・スポーツ科学研究会編『大学生の健康・スポーツ科学 改訂版』(道和書院) ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』(中公文庫) カイヨワ『遊びと人間』(講談社学術文庫) 金子明友『身体知の構造』(明和出版) 高岡英夫『身体意識を鍛える』(青春出版社)
その他 特記事項	健康管理を行う。日常生活において自分自身の健康・身体に高い関心を持つ。

科目名	PED110: 体育 (球技 1)					担当教員	木戸 直美	
開講期	春/秋	開講時限	金3限 金4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-③	
キーワード	テニス技能、運動の発生、身体知、コミュニケーション、大会運営							
授業の概要	テニスは、運動経験（初心者～上級者）が様々であるが、各自の技能に応じた「できない」から「できる」への運動メカニズムを体得することを学ぶ。テニスの基本技能の習得、さらに生涯スポーツへと方向づけることを目的とする。また、スポーツ実践を通して健康の維持・増進、及びコミュニケーション能力の向上を目指す。初心者やこれまで体育・スポーツが苦手な学生も歓迎する。評価は、以下の基準に基づき各自の成長度合いで判断する。							
達成目標	テニスの基本技能を習得し、環境に応じたスポーツ展開の創造へと発展させることができる。スポーツ実践を通して健康の維持・増進、及びコミュニケーション能力の向上を目的とする。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テニスの基本技能を習得する。</li> <li>・ゲーム戦術、審判方法を理解することができる。</li> <li>・テニスの種目特性を理解し、ゲームに通じたコミュニケーション方法を習得する。</li> <li>・ゲームを楽しむことができる。</li> <li>・メガイメントやオリンピックムーブメント・オリンピックレガシーを意識し、自身とスポーツとの関係について考えることができる。</li> </ul>							
評価方法	授業時の積極参加 70%、リアクションシート 30%							
評価基準	<p>授業時の積極参加：①準備体操・整理体操を的確に行う。②用具の準備・片付けを協力して行う。③他者への声かけ。④「わざ」の運動言語による説明。⑤各自の技能に応じた「わざ」の習得。⑥ルールの理解、及びゲーム記録の記述。⑦みるスポーツへの理解。(①～⑦各 10 点満点×7=70 点)</p> <p>リアクションシート：⑧⑨共に提示した書式による記述、総合的な論文構成で採点する。⑧身体知やコミュニケーションの視点から自らの学びの省察の記述 (5 点×4 回=20 点)。⑨メガイメントやオリンピックムーブメント・オリンピックレガシーについて。(10 点)</p>							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ガイダンス、テニスの歴史	教室に集合、リアクションシート⑧-1	
2	テニス：グリップ、ラケットワーク、ストローク	ペアワーク、グループワーク	
3	テニス：ストローク (フォアハンド、バックハンド) <1>	ペアワーク、グループワーク	
4	テニス：ストローク (フォアハンド、バックハンド) <2>	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート⑧-2	
5	テニス：サービス、サービスレシーブ	ペアワーク、グループワーク	
6	テニス：サービス、ボレー	ペアワーク、グループワーク	
7	テニス：ミニゲーム<1>	ペアワーク、グループワーク	
8	テニス：ミニゲーム<2>	ペアワーク、グループワーク	

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	テニス：ストロークとラリー	ペアワーク、グループワーク	
10	テニス：ダブルスゲーム	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート⑧-3	
11	テニス：ダブルスゲーム(戦術)	ペアワーク、グループワーク	
12	テニス：ダブルスゲーム(大会運営)	ペアワーク、グループワーク、リアクションシート⑧-4	
13	室内スポーツ：FD	ペアワーク、グループワーク	
14	室内スポーツ：ミニテニス(基礎練習)	ペアワーク、グループワーク	
15	総括：メガイベント、オリンピック・パラリンピックについて	講義、リアクションシート⑨	

テキスト	ルールのポイントについての資料配布
参考書	金子明友『わざの伝承』(明和出版) 浅田隆夫『現代の保健体育』(学術図書出版)
その他特記事項	スポーツウエア・スポーツシューズを着用する。 雨天時は13・14回と入れ替える。 健康管理を行う。

科目名	PED111: 体育(球技2)					担当教員	原川 愛	
開講期	春/秋	開講時限	金2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.16を参照のこと	
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	2	学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。					2-③	
キーワード	運動技能の構造・成熟・定着・適応、球技、ニュースポーツ、生涯スポーツ							
授業の概要	球技は、運動経験(初心者～経験者)が様々であるが、各自の技能と向き合い、「できない」から「できる」への運動メカニズムを体得することを学ぶ。各スポーツの基礎技術を定着させると共に、コミュニケーション能力も高める。それぞれの種目の特性を活かし、ゲームを楽しむ。評価は、以下の基準に基づき各自の成長度合いで判断する。							
達成目標	ゲームに必要な個人の基礎技術を習得し、個人の能力を尊重しながら、コミュニケーション能力を高め、自らの生涯スポーツへと発展させることができる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目の技術を獲得し、ゲームを楽しめるようになる。</li> <li>・ゲームを通じ、コミュニケーション能力を身に付けることができる。</li> <li>・ルールや審判方法を理解し、ゲームの運営ができるようになる。</li> <li>・オリンピックムーブメントを意識し、自身とスポーツの関係について考えることができるようになる。</li> </ul>							
評価方法	授業時の積極参加 70%、リアクションシート 30%							
評価基準	授業時の積極参加： ①準備体操・整理体操を的確に行う。②用具の準備・片付けを協力して行う。③他者への声かけ。④「わざ」の運動言語による説明。⑤各自の技能に応じた「わざ」の習得。⑥ルールの理解、及びゲーム記録の記述。⑦みるスポーツへの理解。(①～⑦各10点満点×7=70点) リアクションシート：⑧⑨共に提示した書式による記述、総合的な論文構成で採点する。⑧身体知やコミュニケーションの視点から自らの学びの省察の記述(5点×4回=20点)。⑨メガイメントやオリンピックムーブメント・オリンピックレガシーについて(10点)。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	バドミントン(1) 基礎技術 サーブ、ストローク	ペアワーク	
2	バドミントン(2) 基礎技術 フライト	ペアワーク	
3	バドミントン(3) ゲーム	グループワーク・リアクションペーパー	
4	卓球(1) 基礎技術 ストローク、サーブ	ペアワーク	
5	卓球(2) 基礎技術 フットワーク	ペアワーク	
6	卓球(3) ゲーム	グループワーク・リアクションペーパー	
7	バレーボール(1) 基礎技術 パス、サーブ、レシーブ	ペアワーク	
8	バレーボール(2) 基礎技術 トス、スパイク、フォーメーション	ペアワーク	
9	バレーボール(3) ゲーム	グループワーク・リアクションペーパー	

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	バスケットボール(1) 基礎技術 パス、ドリブル、シュート	ペアワーク	
11	バスケットボール(2) 基礎技術 グループ戦術	ペアワーク	
12	バスケットボール(3) ゲーム	グループワーク・リア クションペーパー	
13	ニュースポーツ(1)	ペアワーク	
14	ニュースポーツ(2)	ペアワーク	
15	ニュースポーツ(3)	グループワーク・リア クションペーパー	
<b>その他 特記事項</b>	スポーツウェア・スポーツシューズを着用する。 健康管理を行う。		